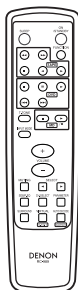
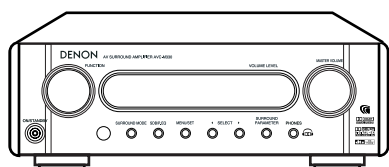
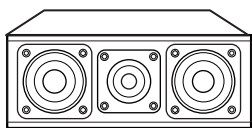
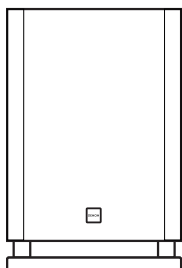
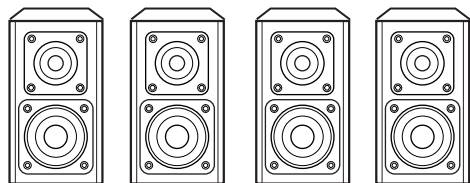
DENON

取扱説明書

DHT-M330

HOME THEATER SYSTEM

ホームシアターシステム

AVサラウンドアンプ
AVC-M330

スピーカーシステムパック
SYS-M330

センター用スピーカー
（SC-CM330）

スーパーウーハー
（DSW-M330）

フロント/サラウンド用スピーカー
（SC-AM330）

ホームシアターシステム DHT-M330は、AVサラウンドアンプ（AVC-M330）とスピーカーシステムパックSYS-M330（フロント/サラウンド用スピーカー（SC-AM330×4台）、センター用スピーカー（SC-CM330×1台）とスーパーウーハー（DSW-M330×1台））で構成されています。

目　次

安全にお使いいただくためにー必ずお守りください。

- お買い上げいただき、ありがとうございます。
- ご使用の前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。
- お読みになった後は、後日お役に立つこともありますので、必ず保管してください。

1 安全上のご注意

正しく安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずよくお読みください。

絵表示について　この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その絵表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。

注意　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

[絵表示の例]

△記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

警 告

■ 安全上お守りいただきたいこと

万一異常が発生したら、電源プラグをすぐに抜く

電源プラグをコンセントから抜け

煙が出ている、変なにおいがする、異常な音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本体の電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、煙が出なくなるのを確認してから販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですので絶対におやめください。

内部に異物を入れない

通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。万一内部に異物が入った場合は、まず本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

安全上のご注意（つづき）

警 告 つづき

■ 安全上お守りいただきたいこと

水が入ったり、濡らしたりしないように

雨天・降雪中・海岸・水辺での使用は特にご注意ください。火災・感電の原因となります。

電源コードは大切に

電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また重いものをのせたり、加熱したり、引っ張ったりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。
電源コードが傷んだら、すぐに販売店に交換をご依頼ください。

キャビネット（裏ぶた）を外したり、改造したりしない

内部には電圧の高い部分がありますので、触ると感電の原因となります。内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。
この機器を改造しないでください。火災・感電の原因となります。

ご使用は正しい電源電圧で

表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。

雷が鳴り出したら

電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

乾電池は充電しない

電池の破裂・液漏れにより、火災・けがの原因となります。

落としたり、キャビネットを破損した場合は

まず本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

■ 取り扱いについて

風呂・シャワー室では使用しない

水場での
使用禁止

火災・感電の原因となります。

この機器の上に花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品や水などが入った容器を置かない

こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。

この機器の上に小さな金属物を置かない

万一内部に異物が入った場合は、まず本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

⚠ 注意

■ 安全上お守りいただきたいこと

電源コードを熱器具に近付けない

コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

電源プラグを抜くときは

電源プラグを抜くときは電源コードを引っ張らずに必ずプラグを持って抜いてください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

濡れた手で電源プラグを抜き差ししない

感電の原因となることがあります。

電池を交換する場合は

極性表示に注意し、表示通りに正しく入れてください。間違えますと電池の破裂・液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。指定以外の電池は使用しないでください。また新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂・液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

電源を入れる前には音量を最小にする

突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

ヘッドホンを使用するときは、音量を上げすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

機器の接続は説明書をよく読んでから接続する

テレビ・オーディオ機器・ビデオ機器などの機器を接続する場合は、電源を切り、各々の機器の取扱説明書に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したり、コードを延長したりすると発熱し、やけどの原因となることがあります。

長時間音が歪んだ状態で使わない

スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

■ 置き場所について

不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

次のような場所には置かない

火災・感電の原因となることがあります。

- 調理台や加湿器のそばなど、油煙や湯気が当たるようなところ
- 湿気やほこりの多いところ
- 直射日光の当たるところや暖房器具の近くなど、高温になるところ

注 意 つづき

■ 置き場所について

壁や他の機器から少し離して設置する

壁から少し離して据え付けてください。また放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面や背面から少し隙間をあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

■ 取り扱いについて

通風孔をふさがない

内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。次のような使いかたはしないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

- 仰向けや横倒し、逆さまにする
- 押し入れ、専用のラック以外の本箱など風通しの悪い狭い場所に押し込む
- テーブルクロスをかけたり、じゅうたんや布団の上に置いて使用する

この機器に乗ったり、ぶら下がったりしない

特に幼いお子様のいるご家庭では、ご注意ください。倒れたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。

重いものをのせない

機器の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

移動させる場合は

まず電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してからおこなってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

この機器の上にテレビなどを載せたまま移動しないでください。倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

■ 使わないときは

長時間の外出・旅行の場合は

安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

■ お手入れについて

お手入れの際は

安全のため電源プラグをコンセントから抜いておこなってください。感電の原因となることがあります。

5年に一度は内部の掃除を

販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前におこなうと、より効果的です。
なお、内部の掃除費用については販売店などにご相談ください。

2 取り扱い上のご注意

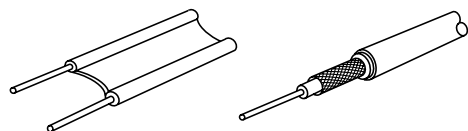
（1）AVサラウンドアンプ（AVC-M330）

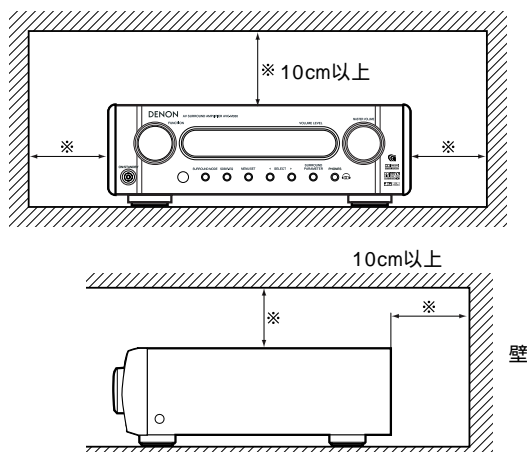
設置の際のご注意

■ 本機やマイクロコンピューターを搭載した電子機器をチューナーやテレビと同時に使用する場合、チューナー・テレビの音声や映像に雑音や画面の乱れが生じることがあります。このような場合には次の点に注意してください。

◎本機をチューナーやテレビからできるだけ離してください。

◎チューナーやテレビのアンテナ線を本機の電源コードおよび入出力などの接続コードから離して設置してください。

◎特に室内アンテナや300Ωフィーダー線をご使用の場合に起こりやすいので、屋外アンテナおよび75Ω同軸ケーブルのご使用をおすすめします。

300Ωフィーダー線　　75Ω同軸ケーブル

■ 放熱のため、アンプユニットの天面、後面および両側面と壁や他のAV機器などとは10cm以上離して設置してください。（下図参照）

その他のご注意

■ 入力端子に機器を接続していない状態で入力の切り替えをおこなうと、クリックノイズが発生することがあります。このような場合は、主音量調節つまみを絞るか、入力端子に機器を接続してください。

■ 電源ボタンを押してスタンバイ状態にしても、一部の回路は通電していますので、外出やご旅行の場合は必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

■ スピーカー端子には、ミューティング回路が組み込まれています。このため、電源投入後数秒間は出力信号が大幅に減衰されます。この動作時に音量を調節しますと、ミューティング終了後非常に大きな出力となりますので、音量調節は必ずミューティング終了後におこなってください。

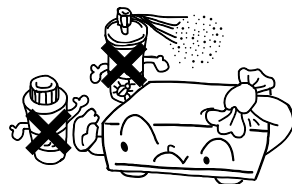
■ 説明のためのイラストは、原型と異なる場合があります。

■ 取扱説明書を保存してください。
この取扱説明書をお読みになった後は、保証書とともに大切に保存してください。また、裏表紙の記入欄に必要事項を記入しておくと便利です。

お手入れについて

■ キャビネットや操作パネル部分の汚れを拭き取るときは、柔らかい布を使用して軽く拭き取ってください。

◎化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書に従ってください。

■ ベンジン・シンナーなどの有機溶剤および殺虫剤などが本機に付着すると、変質したり変色することがありますので使用しないでください。

使わないときは

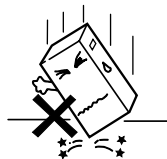
■ **ふだん使わないとき**

◎電源ボタンを押してスタンバイ状態にしてください。

◎外出やご旅行の場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

■ **移動させるとき**

◎衝撃を与えないでください。

◎必ず電源プラグをコンセントから抜いて、接続コードを外したことを確認してからおこなってください。

取り扱い上のご注意（つづき）

(2) スピーカーシステムパックSYS-M330（SC-AM330、SC-CM330、DSW-M330）

設置の際は設置場所・設置方法の安全性を十分ご確認ください。
スタンド、ブラケットなどを使用する場合はそれらの説明書に従い、安全性を確認の上ご使用または設置してください。落下によるいかなる損害、事故についても当社はその責を負いません。

設置の際のご注意

スピーカーシステムの音質は、部屋の大きさ・形態（洋室、和室）・設置のしかたによって変わりますので、次のことに留意して設置してください。

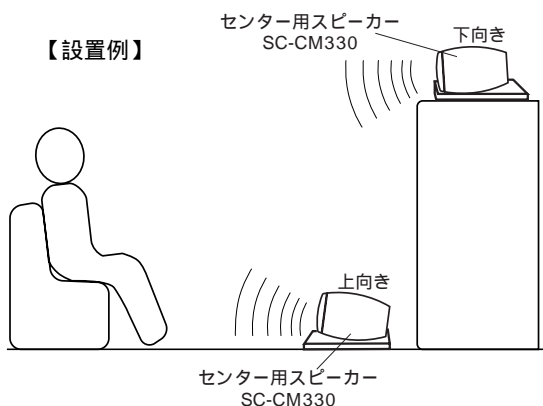
■ スピーカーシステムをレコードプレーヤーと同じ台や棚の上に設置するとハウリングを起こすことがありますので、ご注意ください。

■ スピーカーシステムの背面や前面に壁やガラス戸などがある場合には、共振や反射を防止するために厚手のカーテンなどを掛けるようにしてください。

■ **スピーカーシステムパック SYS-M330（SC-AM330、SC-CM330、DSW-M330）**はテレビとの近接使用が可能な防磁形スピーカーシステムですが、テレビの種類によっては色むらを生じる場合があります。その場合には一度テレビの電源を切り、15～30分後に再びスイッチを入れてください。テレビの自己消磁回路により、画面への影響が改善されます。その後も色むらが残るような場合には、スピーカーをさらに離してください。

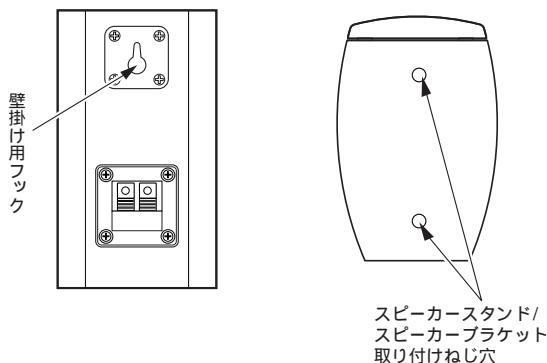
■ **センター用スピーカー（SC-CM330）**は設置する場所によって、前面が上向きまたは下向きになるように設置してください。耳より高い位置に設置する場合は前面が下向きに、床に設置する場合は前面が上向きになるように設置することをおすすめします。付属の台座を下図のように設置し角度を調節してください。

【設置例】

センター用スピーカー
SC-CM330
下向き
上向き
センター用スピーカー
SC-CM330

■ **フロント/サラウンド用スピーカー（SC-AM330）**を台などの上に設置する場合、すべり落ちないように設置場所を注意してください。
床に直接置いて低音域が不自然に強調されたりする場合には、コンクリートブロックなどの固い台の上にのせるようにしてください。必要に応じて、別売りの床置きスタンド（ASS-100、ASS-80）、天井吊りブラケット（ASG-10、ASG-20）、テレビサイドブラケット（ASG-11R）のご使用をおすすめします。

※スピーカーとスタンドとの取り付けは、スタンドに付属の取り付けねじを使用して、スピーカー底面の取り付けねじ穴（ナット）にゆるみがなくなるまで完全に締め付けてください。

【フロント/サラウンド用スピーカー（SC-AM330）背面図】

【フロント/サラウンド用スピーカー（SC-AM330）底面図】

■ **フロント/サラウンド用スピーカー（SC-AM330）**を壁に掛けて使用する場合
フロント/サラウンド用スピーカー（SC-AM330）の背面にある壁掛け用フックを利用して壁に掛けて使用できます。その場合、壁掛け用フックの穴にネジ頭などを差し込みます。（上図参照）スピーカーの質量に耐えられるしっかりした壁に取り付けてください。落下によるいかなる損害・事故についても当社はその責を負いません。

ご注意

- 安全にお使いいただくため、本体の上に物をのせたり、寄り掛かったりしないでください。
- スピーカー側面に力が掛かった場合、スピーカーが落下する恐れがあります。けがなど重大事故の原因になりますので、十分注意してください。

取り扱い上のご注意（つづき）

■ **フロント/サラウンド用スピーカー（SC-AM330）**をスタンドまたはブラケットに取り付ける場合
フロント/サラウンド用スピーカー（SC-AM330）の底面にはM5のナットが60mm間隔で埋め込まれています。別売りの床置きスタンド（ASS-101、ASS-80)、天井吊りブラケット（ASG-10、ASG-20)、テレビサイドブラケット（ASG-11R）に取り付けることができます。取り付けに際しましては、ブラケットやスタンドの説明書に従い、十分注意してしっかりと設置してください。

■ **フロント/サラウンド用スピーカー（SC-AM330）**を天井吊りブラケットに取り付けた際に取り付けの角度により逆さになります。DENONマークは360度回転可能です。設置する向きに合わせてください。

■ 近くにマグネット（磁石）など磁気を発生するものが置かれている場合には、本機との相互作用により、テレビに色むらを発生する場合がありますのでご注意ください。

【例】
- ラック、置き台などの扉に装着されたマグネットがあるとき
- マグネットを用いた健康器具などが近くに置かれているとき
- その他、マグネットを使用した玩具などが近くに置かれているとき

■ **スーパーウーハー（DSW-M330）**の上にレコードプレーヤー、DVDプレーヤーなどを置くと針とび、音とびを起こすことがあります。このような場合はレコードプレーヤー、DVDプレーヤーを別の場所に設置してください。

■ 長時間直射日光を受ける場所やストーブなどの暖房器具の近くに置くことは避けてください。

■ 湿気の多い場所やホコリの多い場所に置きますと、故障の原因となる場合があります。

ご注意

本書に使用しているイラストは、取り扱い方法を説明するためのもので、実物とは異なる場合があります。

警　告

- 天井や壁への取り付けは安全性確保のため、専門施工業者へ依頼してください。
- スピーカー接続コードを足や手に引っ掛けて本機を落下させることのないように、コードは必ず壁などに固定してください。
- 取り付け後は必ず安全性を確認してください。また、その後定期的に落下の可能性がないか安全点検を実施してください。取り付け場所、取り付け方法の不備によるいかなる損害、事故についても当社はいっさいその責を負いません。

3 主な特長

1．ドルビーデジタルデコーダー搭載

デジタル・ディスクリート方式のドルビーデジタルは、各チャンネルが独立して記録されているため、再生時のクロストークが極めて小さく、音の遠近感、移動感、定位感など立体感のある音場をよりリアルに再現。また低音効果用の0.1チャンネルを除く5チャンネルは、CDと同等以上の再生帯域を持ち、より表現力豊かでクリアな音の再現を実現しています。

2．DTSデコーダー搭載/DTS Neo:6搭載

再生チャンネルや再生帯域はドルビーデジタルと同様、FL、FR、C、SL、SRの5chに加えてLFE 0.1chを持つ5.1chで、他にステレオ2chモードがあります。いずれも各チャンネルの信号は完全に独立して記録されるため、各信号間の干渉、クロストークなどで劣化する心配はありません。DTSはドルビーデジタルに対して比較的高いビットレートとなり、相対的に低い圧縮率で動作するのが特徴です。
さらに、通常のステレオソースをマルチチャンネル再生をおこなうDTS Neo:6にも対応しています。

3．パーソナルメモリープラス機能を採用

従来のパーソナルメモリー機能をさらに進化させ、すべての入力ソースに対し、それぞれにサラウンドモードを自動的に記憶します。

4．ドルビープロロジックⅡ デコーダー搭載

ドルビープロロジックⅡ は、ステレオソースを5チャンネルで全帯域再生します。音楽再生に適したMUSICモード、映画再生に適したCINEMAモード、ゲームをお楽しみになる場合に適したGAMEモードに対応しています。

5．AACデコーダー搭載

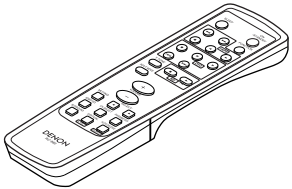
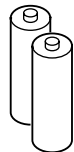
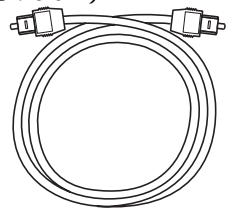
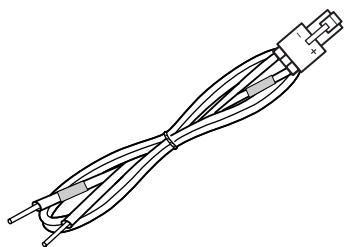
BSデジタル放送、地上デジタル放送にて使用される32kHzから48kHzまでのサンプリング周波数と、LCプロファイルの再生に対応しております。またチャンネル数は最大5.1chのデータに対応しています。

6．ドルビーバーチャルスピーカー、ドルビーヘッドホン機能搭載

限られたスピーカーで、5.1chサラウンド仮想音場を再現するドルビーバーチャルスピーカーを採用しました。（ドルビーバーチャルスピーカーはドルビーラボラトリーの専有技術です。）
フロント、サブウーハーだけで再生する2.1chモードと、センターチャンネルを追加した3.1chモードおよび5.1ch再生時フロントチャンネルの音場を拡大する5.1ch（wide）モードを搭載しています。
また、夜間などスピーカー再生できない環境でも、お手持ちのステレオヘッドホンで迫力サラウンド音場が楽しめるドルビーヘッドホン機能を搭載しています。

7．6.1チャンネル、7.1チャンネル再生拡張機能搭載（サラウンドバックチャンネルプリアウト端子）

クイックセットアップで6.1チャンネル、7.1チャンネルモードに設定すると各社マルチチャンネルフォーマットのデコードに対応できます。

- ドルビーデジタルEX
- DTS-ES
- ドルビープロロジックⅡx

※6.1チャンネル、7.1チャンネル再生には、本機のサラウンドバックチャンネルプリアウト端子に別売の3.1チャンネルアンプ内蔵サブウーハー（DSW-3.1またはME55）と3.1ャンネルスピーカーシステム（SYS-3.1またはME55）をおすすめします。（サラウンドバックチャンネル用アンプ、スピーカーは、お手持ちのステレオアンプやステレオスピーカーなども使用できます。）

8．便利なシステム機能を装備

DVDプレーヤー（DVD-M330）やD-M33シリーズのMDレコーダー（DMD-M33）やカセットデッキ（DRR-M33）とシステム接続するとオートファンクション、シンクロ録音などの操作が簡単にできるシステム機能を装備しています。

4 付属品について

★本体とは別に下記の付属品が入っています。ご使用の前にご確認ください。

リモコン（RC-989） 1個	単4乾電池 2本	光伝送ケーブル（長さ：0.9m） 1本

取扱説明書（本書）……………………………………………………………………**1冊**

製品のご相談と
修理・サービス窓口一覧表…………………………………………………………**1枚**

保証書
（梱包箱に貼り付けられています。）

接続コード A（長さ：約10m）……………………**2本**
※サラウンド用スピーカー（SC-AM330）の接続に使用します。
（接続コードのプラグおよびラベル色：青色/灰色）
接続コード B（長さ：約3m）……………………**4本**
※フロント用スピーカー（SC-AM330）センター用スピーカー（SC-CM330）スーパーウーハー（DSW-M330）の接続に使用します。
（接続コードのプラグおよびラベル色：白色/赤色/緑色/紫色）

5 保証とサービスについて

1 この商品には保証書が添付されております。
保証書は所定事項をお買い上げの販売店で記入してお渡し致しますので、記載内容をご確認のうえ大切に保存してください。

2 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。
万一故障した場合には、保証書の記載内容により、お買い上げの販売店またはお近くの修理相談窓口が修理を申し受けます。
但し、保証期間内でも保証書が添付されない場合は、有料修理となりますので、ご注意ください。
詳しくは、保証書をご覧ください。

※修理相談窓口については、付属品『製品のご相談と修理・サービス窓口一覧表』をご参照ください。

3 保証期間後の修理については、お買い上げの販売店またはお近くの修理相談窓口にご相談ください。
修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理致します。

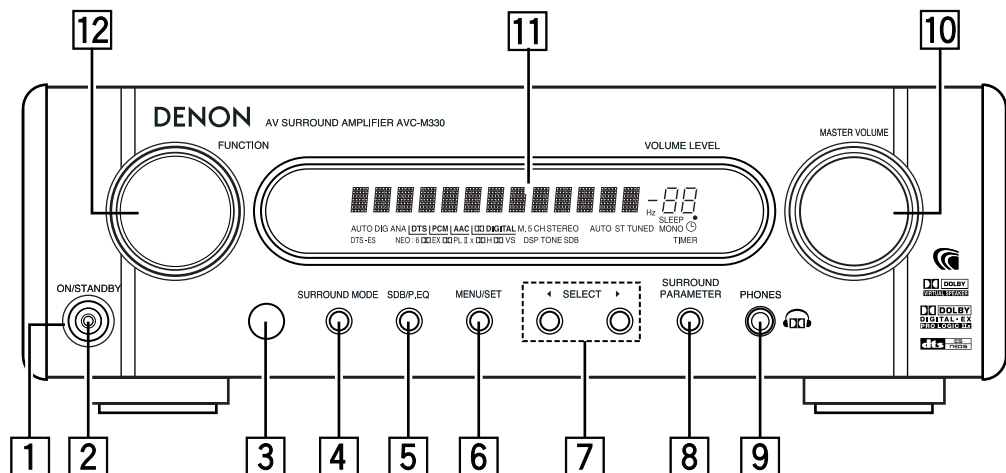
4 本機の補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後8年です。

5 保証および修理についてご不明の場合は、お買い上げの販売店またはお近くの修理相談窓口にご相談ください。

※当社製品のお問い合わせについては、お客様相談窓口にご連絡ください。
詳しくは、付属品『製品のご相談と修理・サービス窓口一覧表』をご参照ください。

6 各部の名前とはたらき

(1) フロントパネル

★各部のはたらきなど、詳しい説明については（　）内のページを参照してください。

1 **電源ボタン（ON/STANDBY）**
- 押して『ON』にすると電源が入り、もう一度押すとスタンバイ状態になります。 ………(22)

2 **電源表示インジケーター**
- スタンバイ状態のときに赤色に点灯します。（電源コードがコンセントから抜けたときに消灯します。）
- ミュート時には、緑色に点滅します。（約1秒に1回）
- 動作状態では緑色に点灯します。
- 温度上昇による保護回路動作時に、赤色に点滅します。

3 **リモコン受光部**
- リモコン（RC-989）をこの受光部に向けて操作してください。 ………(13)

4 **サラウンドモード切り替えボタン（SURROUND MODE）**
- サラウンドモードを切り替えるときに使用します。 ………(27)

5 **スーパーダイナミックバス/プリセットイコライザーボタン（SDB/P.EQ）**
- SDBや各種イコライジングで好みの音質で楽しむときに押します。 ………(35)

6 **メニュー/セットボタン（MENU/SET）**
- 電源オン時は押すと本機の各種機能の確認ができます。（ステータス表示モード） ……(28)
- 電源スタンバイ時に2秒以上押すとクイックセットアップモードになり、各種設定ができます。 ………(20)

7 **セレクトボタン（SELECT◀/▶）**
- 各種モードの選択に使用します。▶ボタンで次へ進み◀ボタンで戻ります。 ………(20、26、28〜36)

8 **サラウンドパラメーターボタン（SURROUND PARAMETER）**
- 再生中のサラウンドモードに関係するサラウンドパラメーターを切り替えます。選択はセレクト◀/▶ボタンでおこないます。………(29)

9 **ヘッドホンジャック（PHONES）**
- ヘッドホンでお楽しみいただくときに使用します。（ヘッドホンは別売り、ステレオミニプラグ対応）
- ヘッドホンを差し込むと、音声はヘッドホンからのみ聞こえ、スピーカーからの音声は聞こえなくなります。 ………(34)

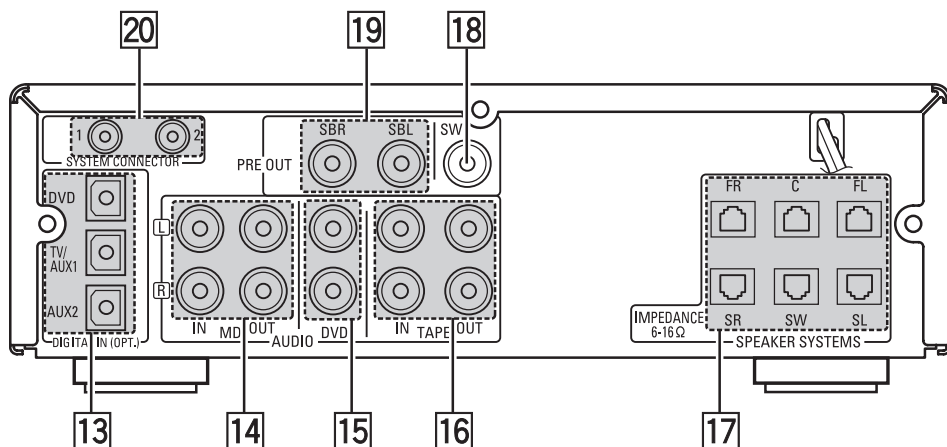
10 **主音量調節つまみ（MASTER VOLUME）**
- 音量を調節します。
- つまみを右（∩）に回すと音が大きくなり、左（∩）に回すと小さくなります。………(22)

11 **ディスプレイ**
- 入力モードやサラウンドモードが表示されます。

12 **ファンクション切り替えつまみ（FUNCTION）**
- 入力を切り替えるときに使用します。 …(27)

各部の名前とはたらき（つづき）

（2）リアパネル

★各部のはたらきなど、詳しい説明については（　）内のページを参照してください。

⑬ デジタル音声入力端子（DIGITAL INPUTS）

- DVDプレーヤー、BSデジタル/地上デジタルチューナーなどのデジタル音声出力（OPTICAL）端子と光伝送ケーブル（角形）で接続します。
  ……………………………………（21、23、24）

⑭ アナログ音声入出力端子（MD INPUT/OUTPUT）

- MDレコーダーなどの録音入力（LINE INまたはREC）端子および再生出力（LINE OUTまたはPB）端子をピンプラグコードで接続します。
  ……………………………………………（24）

ご注意

- 本機のMD（OUT）端子はDVDまたはTAPE（IN）端子に接続されたアナログ音声信号のみ出力されるよう設定されています。デジタル音声入力端子に接続された機器からの音声信号は出力されません。
- 同様に本機のTAPE（OUT）端子はDVDまたはMD（IN）端子に接続されたアナログ音声信号のみ出力されます。
- また、MDやTAPE（OUT）端子に接続された機器で録音をおこなう際には必ず本機の電源をONにしてください。スタンバイ（STANDBY）状態では正しい録音ができません。

⑮ アナログ音声入力端子（DVD）

- DVDプレーヤーなどのアナログ音声出力（ANALOG OUT）端子とピンプラグコードで接続します。
  ……………………………………………（21、24）

⑯ アナログ音声入出力端子（TAPE INPUT/OUTPUT）

- テープデッキなどの録音入力（LINE INまたはREC）端子および再生出力（LINE OUTまたはPB）端子をピンプラグコードで接続します。
  ……………………………………………（24）

⑰ スピーカー端子（SPEAKER SYSTEMS）

- フロント用スピーカー（SC-AM330）とスピーカー端子（左（FL）/右（FR））を付属のスピーカーコードBで接続します。
- センター用スピーカー（SC-CM330）とスピーカー端子（C）を付属のスピーカーコードBで接続します。
- サラウンド用スピーカー（SC-AM330）とスピーカー端子（左（SL）/右（SR））を付属のスピーカーコードAで接続します。
- スーパーウーハー（DSW-M330）とスピーカー端子（SW）を付属のスピーカーコードBで接続します。……………………………（16）

⑱ サブウーハープリアウト端子（SW PRE OUT）

……………………………………………（39）

⑲ サラウンドバックプリアウト端子（SBR,SBL）

……………………………………………（39）

⑳ システム端子（SYSTEM CONNECTOR 1, 2）

- DVDプレーヤー（DVD-M330）、MDレコーダー（DMD-M33）またはカセットデッキ（DRR-M33）を組み合わせて使用するときに、これらの機器に付属のシステムコードで接続します。
  ……………………………………………（21、24）

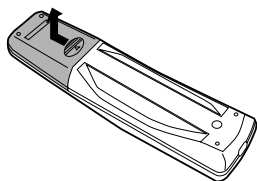
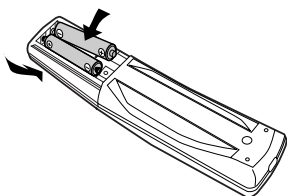
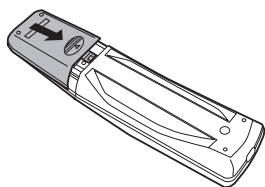
ご注意

- 本機と組み合わせてシステム動作が可能な機器はDVD-M330、DMD-M33、DRR-M33のみです。他の機器（CDプレーヤーやCDレコーダー、チューナーなど）を接続しても、システム動作はしません。

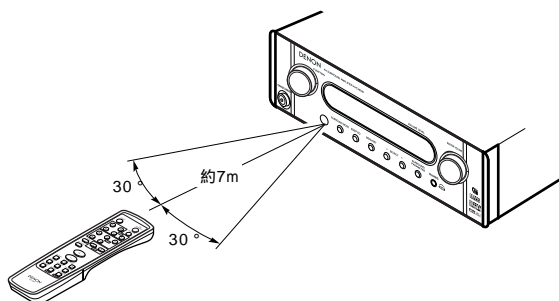
7 リモコンについて

★付属のリモコン（RC-989）を使うと、離れたところから本システムをコントロールすることができます。

(1) 乾電池の入れかた

① 矢印のように押してスライドさせ裏ぶたをはずします。

② 単4形乾電池（2本）をそれぞれ乾電池収納部の表示通りに入れてください。

③ 裏ぶたを元通りにしてください。

ご注意

- リモコンには単4形乾電池をご使用ください。
- リモコンの使用回数にもよりますが、乾電池は約1年毎に新しいものと交換してください。
- 1年経っていなくてもリモコンを本機の近くで操作して本機が動作しないときは、新しい乾電池と交換してください。
- 付属の乾電池は動作確認用です。早めに新しい乾電池と交換してください。
- 乾電池を入れるときは、リモコンの乾電池収納部の表示通りに⊕側・⊖側を合わせて正しく入れてください。
- 破損、液漏れの恐れがありますので、
  - ・新しい乾電池と使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - ・違う種類の乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - ・乾電池をショートさせたり、分解や加熱または火に投入したりしないでください。
- リモコンを長時間使用しないときは、乾電池を取り出してください。
- 万一、乾電池の液漏れがおこったときは、乾電池収納部内についた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。
- 乾電池を交換するときはあらかじめ交換用の乾電池を用意し、できるだけ速やかに交換してください。

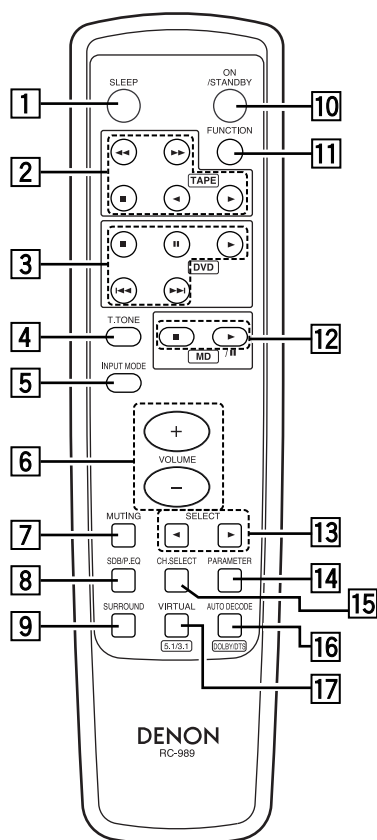
(2) リモコンの使いかた

- リモコンは、図のようにリモコン受光部に向けて使用してください。
- 直線距離で約7m離れたところまで使用できますが障害物があったり、リモコン受光部に向いていないと受信距離は短くなります。
- リモコン受光部を基準にして左右30°までの範囲で操作できます。

ご注意

- リモコン受光部に直射日光や照明器具の強い光が当たっていたり、リモコン受光部との間に障害物があるとリモコンが動作しにくくなります。
- 本体とリモコンの操作ボタンを同時に押さないでください。誤動作の原因になります。

リモコンについて（つづき）

(3) リモコンボタンの名前とはたらき

★各ボタンのはたらきなど、詳しい説明については（ ）内のページを参照して下さい。

1 SLEEP（スリープ）ボタン
スリープタイマーを設定するときに押します。 ………(50)

2 カセットデッキの操作ボタン
- 正方向プレイボタン（▶）
  カセットデッキの正方向の再生または録音をはじめるときに押します
- 逆方向プレイボタン（◀）
  カセットデッキの逆方向の再生または録音をはじめるときに押します。
- ストップボタン（■）
  再生または録音を停止するときに押します。
- 早送りボタン（▶▶）
  カセットテープを早送りするときに押します。
  再生中に押すと、次の曲の頭出しができます。
- 巻き戻しボタン（◀◀）
  カセットテープを巻き戻すときに押します。
  再生中に押すと、現在の曲の頭出しができます。

3 DVD操作ボタン
- プレイボタン（▶）
  DVDの再生を始めるときに押します。
- ポーズボタン（❚❚）
  DVDを一時停止するときに押します。
- ストップボタン（■）
  再生を停止するときに押します。
- オートマチックサーチボタン（❙◀◀/▶▶❙）
  曲の頭出しをおこなうときに押します。 ………(51〜55)

4 T.TONE（テストトーン）ボタン
各チャンネルの再生レベルを調整するテストトーンをON/OFFします。 ………(26)

5 INPUT MODE（インプットモード）ボタン
入力信号のモードを切り替えます。 ………(27)

6 VOLUME＋,−（音量＋,−）ボタン
主音量を調節します。 ………(22)

7 MUTING（ミューティング）ボタン
一時的に音を消します。もう一度押すと音が出ます。 ………(35)

8 SDB/P.EQ（SDB/プリセットイコライザー）ボタン
SDBやプリセットイコライザーで音質を切り替えます。 ………(35)

9 SURROUND（サラウンドモード）ボタン
サラウンドモードを切り替えます。 ………(27)

10 ON/STANDBY（オン/スタンバイ）ボタン
電源を『ON/STANDBY』にします。 ……(22)

11 FUNCTION（ファンクション）切り替えボタン
選ばれた入力ソースに切り替えます。 ……(27)

12 MD操作ボタン
- プレイボタン（▶）
  MDの再生を始めるときに押します。（DMD-M33とシステム接続時はプレイ/ポーズ（▶/❚❚）ボタンとして動作します。）
- ストップボタン（■）
  再生または録音を停止するときに押します。

13 SELECT(セレクト◀,▶)ボタン
サラウンドパラメータの選択やテストトーンやチャンネルレベル設定のレベル調節などに使用します ………(20、26、28〜36)

14 PARAMETER（サラウンドパラメーター）ボタン
再生中のサラウンドモードに関係する各種パラメータを切り替えます。 ………(29)

15 CH.SELECT（チャンネルセレクト）ボタン
再生レベルやディレイタイムを調節するチャンネルを選択します。 ………(26、36)

⑯ **AUTO DECODE（オートデコード）ボタン**
サラウンドモードをオートデコードモードにします。入力された信号により自動的にドルビーデジタル、DTS、AACサラウンドモードに切り替わります。
……………………………………………(29)

⑰ **VIRTUAL（バーチャル）ボタン**
サラウンドモードをドルビーバーチャルスピーカーモードにします。このモード中に押すと、再生チャンネルを2.1ch、3.1ch、と5.1chに切り替えます。
……………………………………………(33)

－ホームシアター簡単マニュアル－

8 簡単にDVDホームシアターを楽しむ

ご注意

- すべての接続が終わるまで、電源プラグをコンセントに差し込まないようにしてください。
- 接続の際、本機に付属しています接続コード A、Bを使用しますが、接続コードは色別プラグおよびラベルで色分けがされていますので、AVサラウンドアンプのスピーカー端子と同色になるように接続してください。
- AVサラウンドアンプ背面のスピーカー端子は、付属のスピーカーの接続専用に設計されています。これらの端子には、絶対に指定以外の機器を接続しないでください。誤動作を起こすだけでなく、AVサラウンドアンプの故障や火災などの原因にもなります。
- 電源プラグはしっかり差し込んでください。不完全な接続は、雑音発生の原因になります。
- 接続コードと電源コードを一緒に束ねたり、電源トランスの近くに接続コードを設置しますと、ハムや雑音の原因となることがあります。
- AVサラウンドアンプには専用の接続コードで専用のスピーカー以外は接続しないでください。
- 通電中は絶対にスピーカー端子に触れないでください。感電する場合があります。

保護回路について

AVサラウンドアンプ（AVC-M330）には保護回路が内蔵されています。これはパワーアンプの出力が誤って短絡された際に大電流が流れたり、非常に大きな出力があった場合に、スピーカーを保護するためにスピーカー出力を遮断します。
また、内部温度が異常に上昇した場合に保護回路が動作し本体を保護します。（温度上昇による保護回路動作時は、ディスプレイのボリューム表示が点滅しスピーカー出力が制限されます。さらに内部温度が上昇した場合、電源がスタンバイになり電源表示インジケーターが赤色に点滅します。）このような場合は、必ずAVサラウンドアンプの電源プラグをコンセントから抜き、接続コードや入力コードの配線に異常がないかを確認の上、AVサラウンドアンプの温度が極端に上がっている場合は、AVサラウンドアンプが冷えるのを待って周囲の通風状態を良くしてからもう一度電源を入れ直してください。
配線やAVサラウンドアンプの周囲の通風に問題がないにも関わらず、保護回路が動作してしまう場合は、AVサラウンドアンプが故障していることも考えられますので、AVサラウンドアンプの電源プラグをコンセントから抜いた上で弊社のお客様相談窓口または修理相談窓口にご連絡ください。

簡単にDVDホームシアターを楽しむ（つづき）

(1) スピーカーシステムの接続

★ 接続の際、本機に付属しています接続コード A、Bを使用しますが、接続コードは色別プラグおよびラベルで色分けがされていますので、AVサラウンドアンプのスピーカー端子と同色になるように接続してください。

※付属の接続コードの色ラベル付の方をプラス（＋）側に接続してください。

フロント用スピーカー
右 （SC-AM330）

センター用スピーカー
（SC-CM330）

フロント用スピーカー
左 （SC-AM330）

FR 赤　C 緑　FL 白

接続コードB
（長さ：約3m）（付属）

AVサラウンドアンプ
(AVC-M330)

接続コードB
（長さ：約3m）（付属）

SYSTEM CONNECTOR 1 2
PRE OUT SBR SBL SW
DVD TV/AUX1 AUX2 DIGITAL IN (OPT.)
L R IN MD OUT AUDIO DVD IN TAPE OUT
FR C FL SR SW SL
IMPEDANCE 6Ω SPEAKER SYSTEMS

接続コードA
（長さ：約10m）（付属）

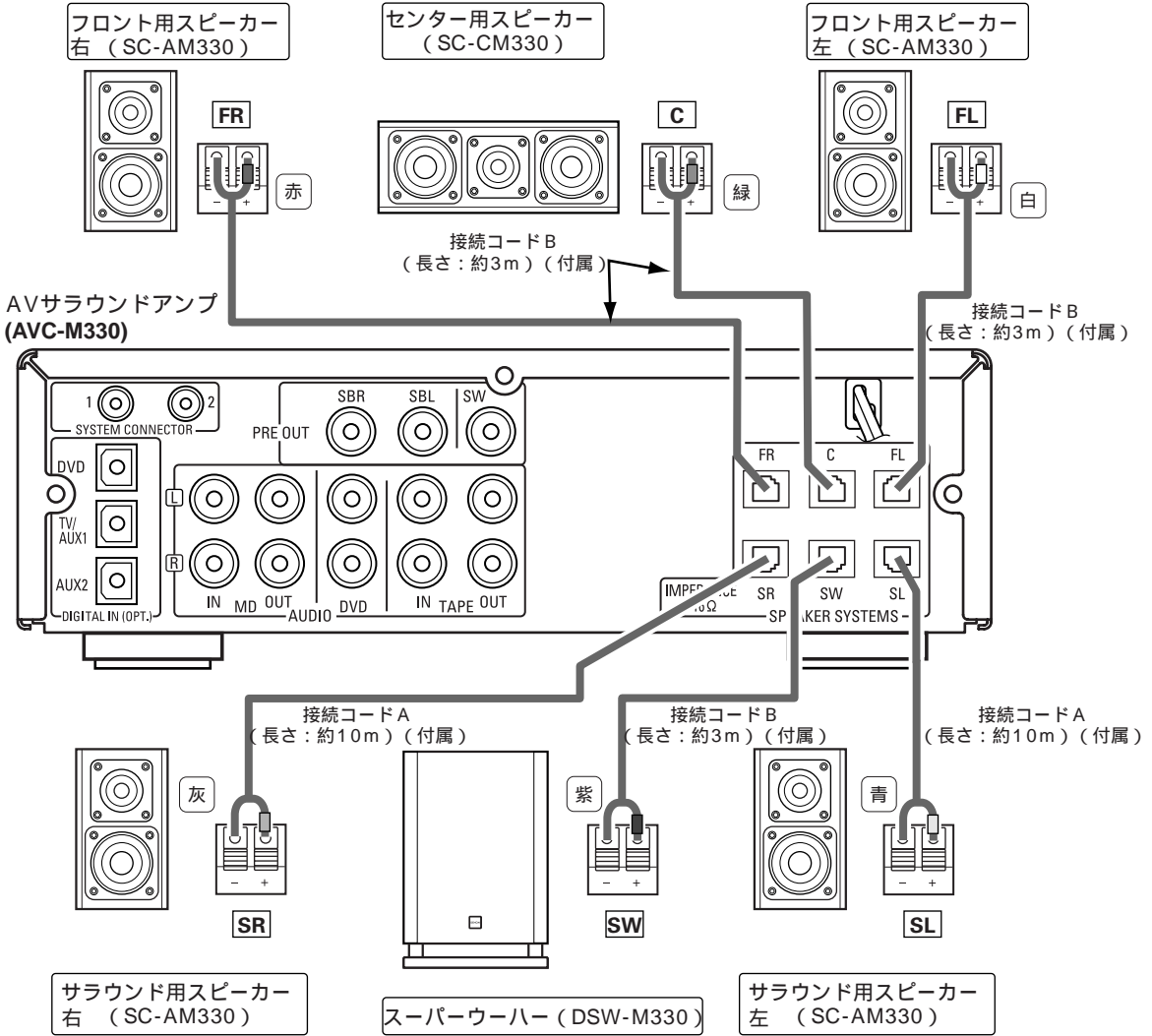
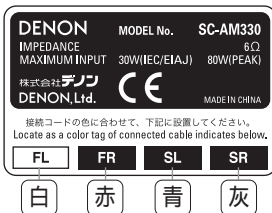
接続コードB
（長さ：約3m）（付属）

接続コードA
（長さ：約10m）（付属）

灰 SR　紫 SW　青 SL

サラウンド用スピーカー
右 （SC-AM330）

スーパーウーハー（DSW-M330）

サラウンド用スピーカー
左 （SC-AM330）

[スピーカーラベルの説明]

※スピーカーを設置する位置に応じて、その色の接続コードを使用して、AVサラウンドアンプと接続します。

スピーカー設置時のご注意

テレビまたはモニター受像機に近付けるとスピーカーの磁気により画面に色ズレが生じることがあります。この場合は影響のない位置に離してください。

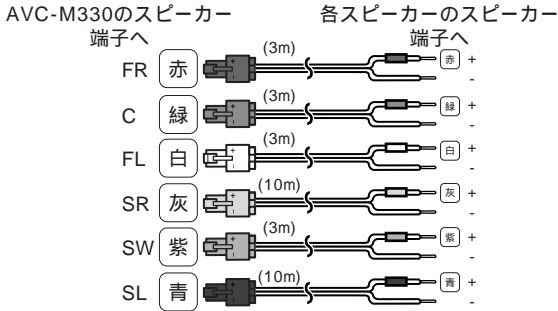
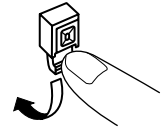
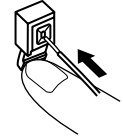
■ スピーカー端子への接続方法

ご注意

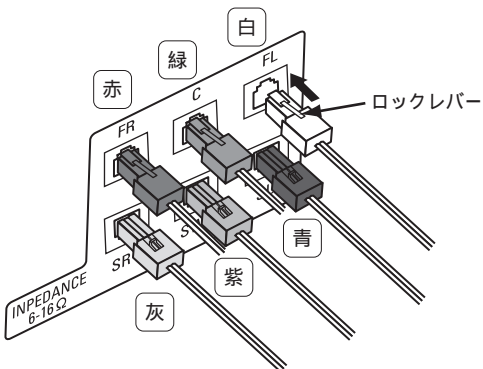
- プラス（＋）とマイナス（－）を間違って接続したり、左右のスピーカーを間違えて接続しないでください。
- **付属の接続コードの表示色の方をプラス（＋）側に接続してください。**
- 回路の故障を防ぐため、接続コードの芯線のプラスとマイナスまたはL/Rを絶対にショートさせないでください。

★ 接続の際、本機に付属しています接続コード A、Bを使用しますが、接続コードは色別プラグおよびラベルで色分けがされていますので、AVサラウンドアンプのスピーカー端子と同色になるように接続してください。

※ **付属の接続コードの色ラベル付の方をプラス（＋）側に接続してください。**

- 接続コードA（10m）、B（3m）は、次のように接続してください。

① 端子レバーを押し下げます。

② コードの芯線を穴の中に差し込みます。

③ レバーを離します。

④ 接続コードを軽く引っ張って抜けないことを確認してください。

- 接続コードのプラグはしっかりと奥まで差し込んでください。接続が不完全ですと、雑音や動作不良の原因になります。

① スピーカー端子の色に合わせて接続します。

② プラグは「カチッ」と音がするまで、しっかり奥まで差し込んでください。

　赤、緑、白 ：ロックレバーを上にして差し込む。

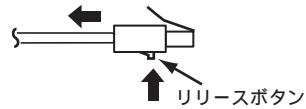
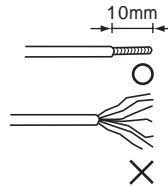
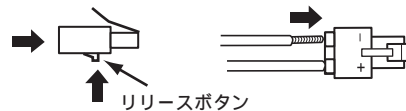
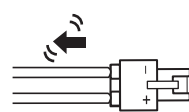
　灰、紫、青 ：ロックレバーを下にして差し込む。

③ プラグをはずすときは、ロックレバーを押しながら抜きます。

簡単にDVDホームシアターを楽しむ（つづき）

■ スピーカー接続コードの交換方法

★ 付属の接続コードを延長したい場合など、スピーカー接続コードを交換することができます。

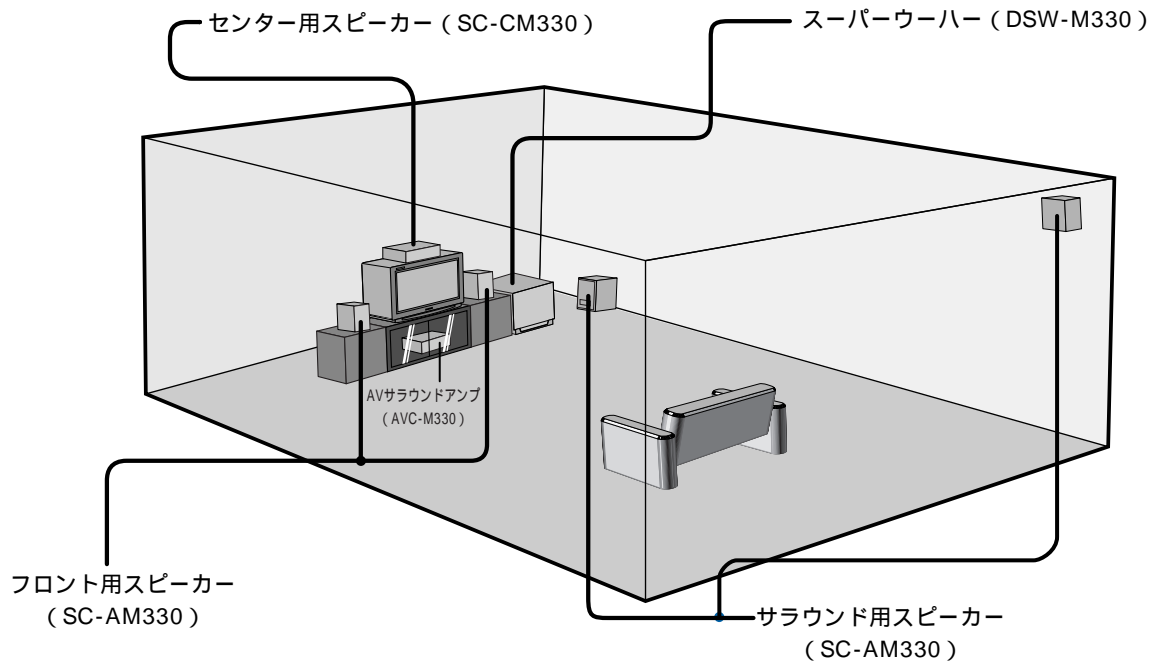
① ロックレバーと反対側のリリースボタンを押しながら、コードをプラグから抜きます。

② 交換するコードの先端の被覆をはがして、先端がばらけないようにしっかりよじります。

③ リリースボタンを押しながら、コードの極性＋と－をプラグの＋と－に合わせて芯線を差し込みます。

④ リリースボタンを離し、コードを軽く引っ張って抜けないことを確認してください。

スピーカー接続コード交換時のご注意

- かならずAVサラウンドアンプの電源を切ってからおこなってください。
- **＋と－の芯線がショートしていないこと確認してから、極性をまちがえないように正しく接続して下さい。**
- 本機のスピーカープラグに接続できるスピーカー接続コードの太さは1.2mm程度までです。
- リリースボタン側を机など平らな面に押し付けてコードの抜き差しをすると簡単です。
- コードの芯線がプラグからはみ出したり、ショートしていないことを確認してから使用してください。

簡単にDVDホームシアターを楽しむ（つづき）

■ スピーカー設置のしかた

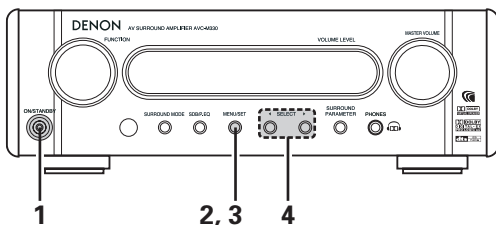
★ スピーカーシステムのレイアウト（基本的なシステムレイアウト）

- スピーカーシステム（6台）とテレビを組み合わせた基本的なシステムレイアウトの例です。

(2) クイックセットアップのしかた

★ 本機は工場出荷時に、あらかじめ一般的な内容にシステム設定がされており、システム変更をおこなう必要がなければ、そのままの状態で使用できます。
★ 次のような場合はクイックセットアップをおこない、システム設定をしてからご使用ください。
① スピーカー構成を6.1chまたは7.1chに拡張して使用する場合（39ページ参照）
② 6畳以上の広いスペースにスピーカーを設置する場合（下記ルーム設定で選択してください。）
③ TAPEファンクションをTV/AUX1ファンクションとしてデジタルアナログの両方の入力を接続して使用する場合（下記ファンクション設定でTV/AUX1を選択してください。）

クイックシステム設定内容　　　　□：工場出荷時の設定

設定項目		設定内容＜＞：ディスプレイ表示		
スピーカー構成 SPEAKER SETUP	ご使用になるスピーカーの構成を選択します。	＜5.1CH＞ フロント2ch センターch サラウンド2ch サブウーハーch	＜6.1CH＞ フロント2ch センターch サラウンド2ch サラウンドバックch サブウーハーch	＜7.1CH＞ フロント2ch センターch サラウンド2ch サラウンドバック2ch サブウーハーch
ルーム設定 ROOM SETUP	スピーカーの設置スペースを選択します。	＜6（2.7×3.6）＞ 6畳相当	＜10（3.6×4.5）＞ 8〜10畳相当	＜15（4.5×5.4）＞ 12〜15畳相当
ファンクション設定 FUNC. SETUP	アナログ入出力端子だけのTAPEファンクションか、アナログ入出力端子＋デジタル入力端子のTV/AUX1ファンクションかを選択します。	＜TAPE＞ アナログ入出力端子のTAPEファンクションとして使用します。（TV/AUX1はデジタル入力専用の独立したファンクションです。）	＜TV/AUX1＞ アナログ入出力端子（TAPE）とデジタル入力端子（TV/AUX1）をTV/AUX1ファンクションとして使用します。	

■ クイックセットアップのしかた

1 **電源を切ります。**
- スタンバイ状態になり、電源表示インジケーターが赤色になります。

ON/STANDBY　赤　（本体）　　ON/STANDBY　（リモコン）

2 **メニュー/セットボタンを2秒以上押します。**
- ディスプレイが点灯し、“QUICK SETUP”が表示されます。

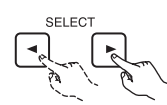
MENU/SET（本体）

3 **メニュー/セットボタンを押す（1秒以内）ごとに設定したい項目を表示します。**
- 押すごとに次のように変わります。

MENU/SET（本体）

SPEAKER SETUP ⟶ ROOM SETUP ⟶ FUNC.SETUP ⟶（終了）

- 設定する項目で1秒たつと、現在の設定値が表示されます。

4 **セレクト◄、►ボタンで設定したい内容を選択します。**
- 変更しない場合は、そのままメニュー/セットボタンで送ります。

SELECT（本体）　　SELECT（リモコン）

5 **メニュー/セットボタンを押して一巡したら終了し、スタンバイ状態にもどります。**

簡単にDVDホームシアターを楽しむ（つづき）

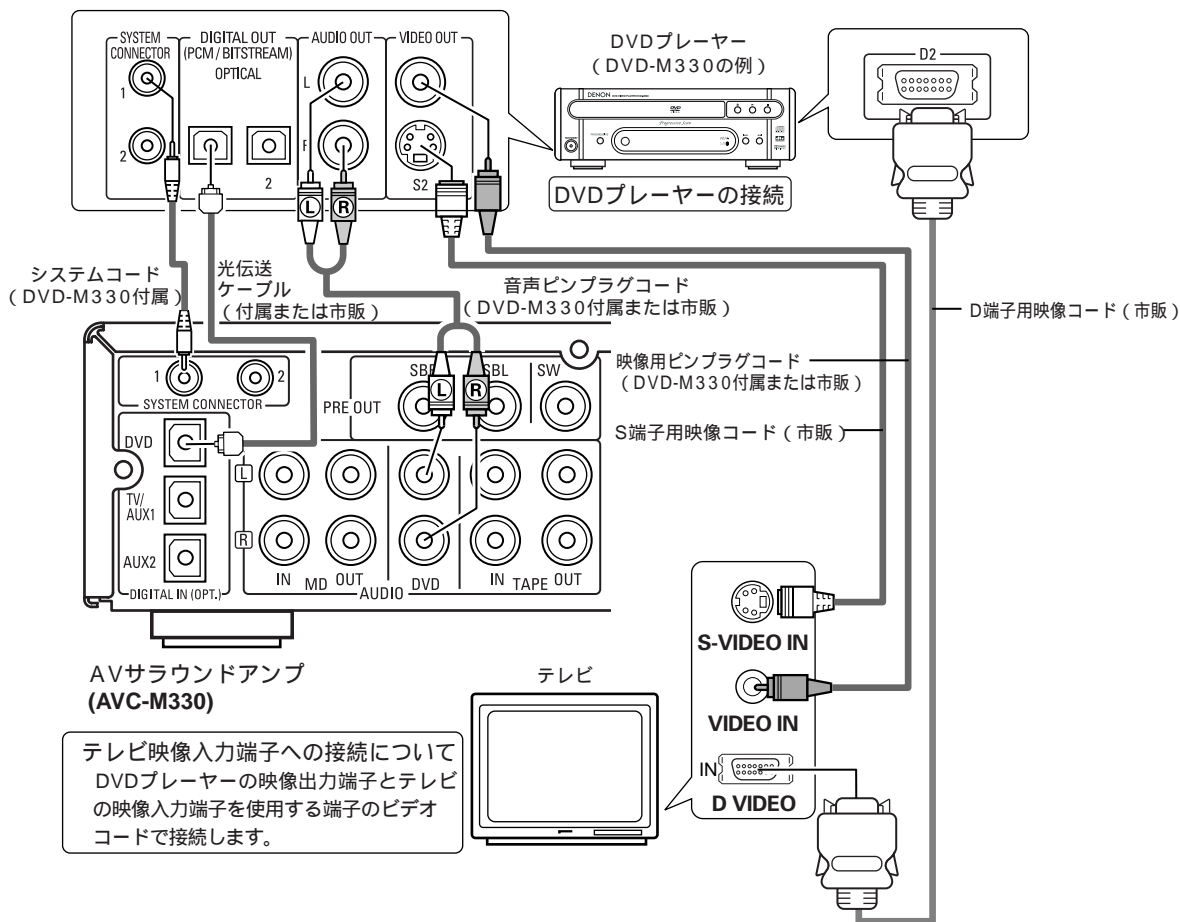
(3) DVDプレーヤーとTVを接続する

★ 接続の際は、各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
★ 接続コードをそれぞれの端子に間違えないように接続してください。
★ MDレコーダーやカセットデッキへのアナログ録音のため音声ピンプラグコードも接続してください。
※ ドルビーデジタル、DTSなどマルチチャンネル信号を再生する場合は、デジタル音声の接続が必要です。MDレコーダーやカセットデッキへのアナログステレオ録音のため音声ピンプラグコードも接続してください。

アナログ音声入力端子への接続について

- プレーヤーの音声出力（AUDIO OUT）端子と本機のDVD音声入力（IN）端子を付属または市販の音声ピンプラグコードで接続します。

デジタル入力端子への接続について

- DIGITAL OUTPUT端子が付いている機器を接続します。
- 光伝送（OPTICAL）の接続は、付属品または市販の光伝送ケーブル（角形）を使用して接続してください。

ご注意

- 本機には、映像信号入出力端子と切り替え機能がありません。テレビの切り替えをご使用ください。
- DVDプレーヤーとテレビの映像接続の方法は、各機器の取扱説明書をご覧ください。
- DVDプレーヤー（DVD-M330）でDTSダウンミックス機能を搭載していない機器では、DTSソースのアナログステレオ音声が出力されません。他の録音機器へのアナログ録音はできません。詳細はDVDプレーヤーの取扱説明書を参照ください。

簡単にDVDホームシアターを楽しむ（つづき）

最適なサラウンド再生を楽しむために

工場出荷時（初期値）の設定でサラウンド再生を楽しむことができますが、より最適なサラウンド再生をおこなうためには、テストトーンによる各チャンネルレベルの調整やスピーカーの距離設定（ディレイタイム）などを設定することをおすすめします。
詳細は（26ページ）を参照して設定をおこなってください。

（4）DVDソフトをサラウンド再生する

- 16〜21ページを参照して、接続に間違いがないことを確認します。

1 電源を入れます。

- ディスプレイが点灯します。
- 電源を入れてから音声が出力されるまで、雑音を防止するミューティングが動作し、数秒かかります。

（本体）

（リモコン）

2 入力ソース“ DVD ”を選択します。

（本体）

（リモコン）

3 サラウンドモードを“ AUTO DECODE ”にします。
下記の表示になります。

AUTO DECODE ➡ AUTO ST DVD

※ 信号が入力されていない場合

SURROUND MODE
（本体）

AUTO DECO
（リモコン）

4 DVDソフトの再生をします。ソフトの種類によって、下記の表示に変わります。

例）DOLBY DIGITAL ソフト再生時

DIGITAL DVD

- ドルビーデジタルサラウンド再生します。

例）DIGITAL dts SURROUND ソフト再生時

DTS DVD

- DTSサラウンド再生します。

例）COMPACT disc DIGITAL AUDIO ソフト再生時

AUTO ST DVD

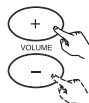
- オートステレオではステレオ再生します。

5 音量を調節します。

20 音量が主音量レベル表示に表示されます。

MASTER VOLUME
（本体）

（リモコン）

- 入力モード「AUTO」、サラウンドモード「AUTO DECODE」では、再生したディスクの信号によって、ドルビーデジタル/DTS/PCMを選択し、ドルビーデジタル/DTS/オートステレオのいずれかの方法で自動的にデコードおよび再生をおこないます。
- サラウンドモードやサラウンドパラメータなどの詳細は『11.　サラウンド機能の操作のしかた』（26〜38ページ）を参照ください。

9 BS、地上波デジタルチューナーやVTR音声の接続のしかた

★ 映像信号は直接テレビに接続して、テレビで切り替えてください。
★ 接続の際は、各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

ご注意

- 本機のMD（OUT）端子はDVDまたはTAPE（IN）端子に接続されたアナログ音声信号のみ出力されるよう設定されています。デジタル音声入力端子に接続された機器からの音声信号は出力されません。
- 同様に本機のTAPE (OUT)端子はDVDまたはMD (IN)端子に接続されたアナログ音声のみ出力されます。
- 上記デジタルチューナーのように光デジタル出力をTV/AUX1に、アナログ音声出力をTAPE(IN)端子に接続して使用する場合は、クイックセットアップのファンクション設定をTV/AUX1に設定してください。（設定は20ページ参照）デジタル入力TV/AUX1とアナログ音声入力TAPE(IN)がTV/AUX1ファンクションとして同時に選択され、本機でデジタル入力でサラウンド再生をしながら、MDなどの録音機器にステレオアナログ録音することができます。
- MDやTAPE（OUT）端子に接続された機器で録音をおこなう際には必ず本機の電源をONにしてください。スタンバイ（STANDBY）状態では正しい録音ができません。

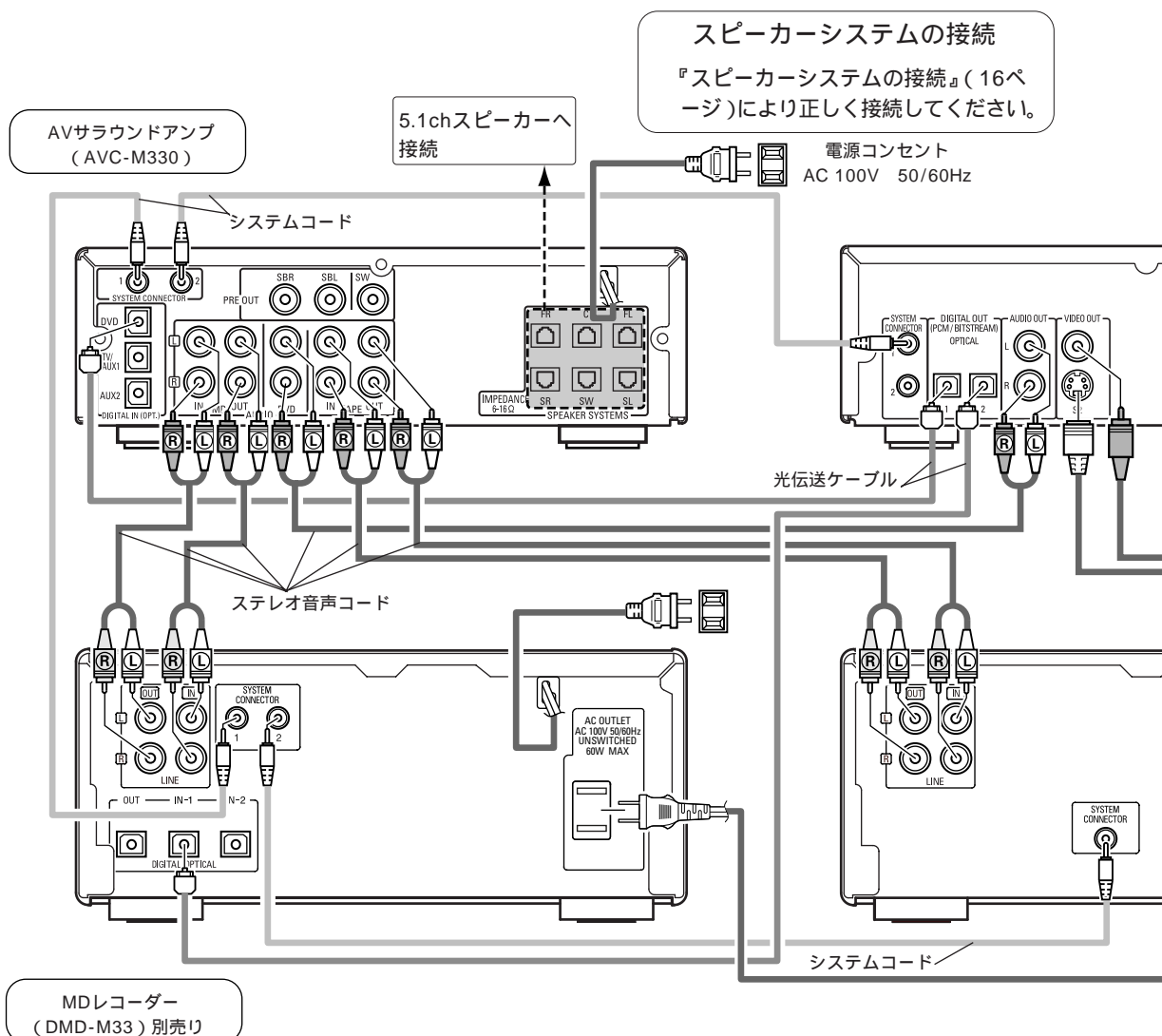
10 D-M33シリーズ機器とのシステム接続のしかた

★本機はDVDプレーヤー（DVD-330）やD-M33シリーズのMDレコーダー（DMD-M33）、カセットデッキ（DRR-M33）とシステム接続して使用することができます。
★別売りのDVDプレーヤー（DVD-330）やMDレコーダー（DMD-M33）、カセットデッキ（DRR-M33）の操作のしかたは、各機器に付属の取扱説明書をご覧ください。
★本機と直接システム接続できる機器はDVDプレーヤー（DVD-M330）、MDレコーダー（DMD-M33）、カセットデッキ（DRR-M33）です。

ご注意

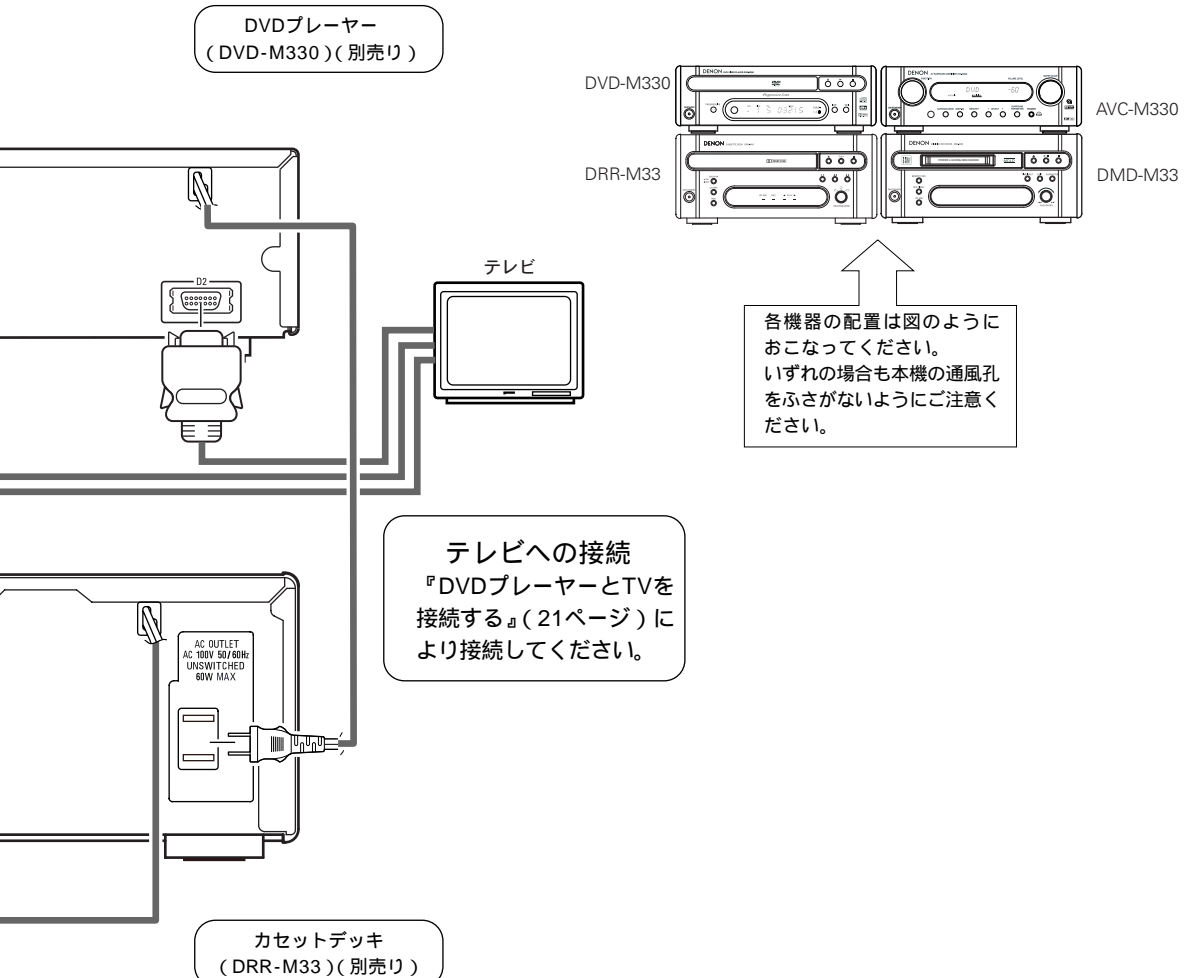
- すべての接続が終わるまで、電源プラグをコンセントに差し込まないでください。
- 左右のチャンネルを確かめてから、正しくLとL（白）、RとR（赤）を接続してください。
- 電源プラグは確実に差し込んでください。不完全な差し込みは雑音発生の原因になります。
- 接続コード類と電源コードを一緒に束ねたり、他の電気製品の近くに接続コード類を近づけたりすると雑音の原因のなることがあります。
- ファンクション切り替えボタン（FUNCTION）で選択されたファンクションの入力端子に、機器を接続していない場合、他の入力端子に接続された機器の再生音が漏れることがあります。

スピーカーシステムの接続

- 『スピーカーシステムの接続』（16ページ）により正しく接続してください。

システム接続について

- 本機とシステム接続してシステム動作をおこなえるDVDプレーヤー、MDレコーダーおよびカセットデッキはそれぞれ1台です。DVDプレーヤー、MDレコーダーやカセットデッキを2台システム接続すると、正常なシステム動作がおこなわれません。
- 各機器間のすべてのステレオ音声コードとシステムコードを接続しないと、オートファンクション機能などのシステム動作がおこなわれません。各機器間のすべての接続コードは確実に接続してください。
- 動作中にシステムコードなどを抜くと誤動作の原因になりますので、必ず電源プラグをコンセントから抜いた後で接続の変更をおこなってください。
- システムコードは他機器のあいている端子1または2に差し込んでください。

テレビへの接続

- 『DVDプレーヤーとTVを接続する』（21ページ）により接続してください。

11 サラウンド機能の操作のしかた

(1) サラウンド再生の前に

1 テストトーンによる再生レベルの確認と調節

★再生の前に、必ずテストトーンにより各スピーカーの再生レベルの確認と調節をおこなってください。

★テストトーンで調節したチャンネルレベルはすべてのサラウンドモードに適用されます。

1 **AUTO DECODEボタンを押してオートデコードモードにしてからT.TONEボタンを押します。**

AUTO DECODE　T.TONE　DOLBY/DTS

（リモコン）

2 **テストトーンが各スピーカーから出力されますので、本体のMASTER VOLUMEつまみを回すか、またはリモコンのVOLUMEボタンを押して調節しやすい音量にします。**

AUTO-FL　DVD 40

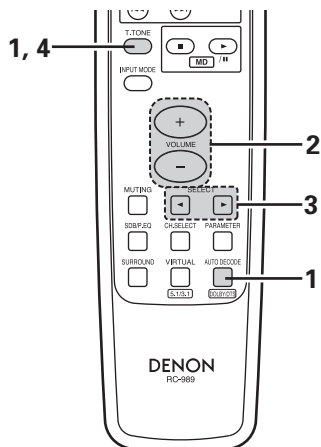
音量がディスプレイに表示されます。

（本体）　（リモコン）

3 **テストトーンが各スピーカーから順に出力されますので、各スピーカーの音量が同じになるようにセレクト◄,►ボタンで調節します。**

- 各チャンネルレベルは±12dBまで調節できます。

4 **調節が終わったら、もう一度T.TONEボタンを押して、終了します。**

（リモコン）

2 再生中のチャンネルレベルの調節

★テストトーンによる調節後も、再生するプログラムソースまたはお好みに合わせて、下記の操作により各チャンネルレベルの調節をおこなうことができます。

★調節したレベルは各サラウンドモードごとに自動的に記憶されます。

1 **リモコンのCH.SELECTボタンを押します。**

- 下記が表示されます。

CH.SELECT（リモコン）

LEVEL</>DELAY

2 **上記表示中にセレクト◄ボタンでLEVELを選択します。**

- 下記のレベル表示となります。

SELECT（リモコン）

FL VOL< 0dB>

3 **再生中に、レベル調節したいスピーカーを選択します。**

※ CH.SELECTボタンを押すたびに次のように切り替わります。

CH.SELECT（リモコン）

フロント左 → センター → フロント右 → サラウンド右 → サラウンド左 → サブウーハー → (END) → フロント左

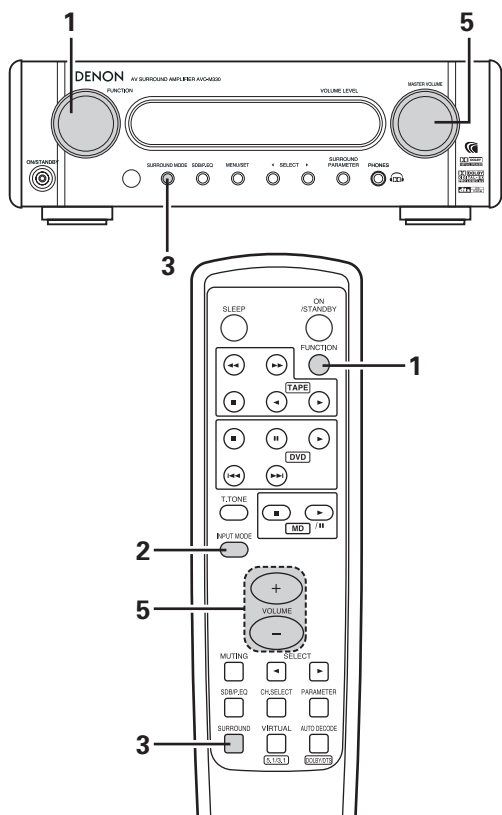
- 6.1/7.1ch設定時にはサラウンドバックも選択、調節できます。

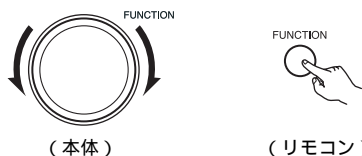
4 **チャンネルレベル表示中に選択したスピーカーの音量レベルを調節します。**

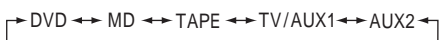
- 各チャンネルレベルは±12dBまで調節できます。

SELECT（リモコン）

※ チャンネルレベルの設定が終了したら操作**3** でEND（終了）を選択します。数秒たつと表示が通常状態に戻ります。

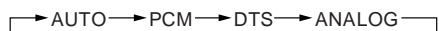
(2) 入力モードの設定

1 **ファンクションつまみを回して（リモコンはファンクションボタンを押して）再生したい入力ファンクションを選択します。**

（本体）　（リモコン）

- ファンクションが次のように切り替わります。リモコンで操作した場合は、 ➝ 方向のみ切り替わります。

DVD ↔ MD ↔ TAPE ↔ TV/AUX1 ↔ AUX2

2 **入力ファンクションにDVD、TV/AUX1またはAUX2を選んだときは、リモコンのINPUT MODEボタンを押して入力モードを選択します。**

INPUT MODE
（リモコン）

※ 通常は「AUTO」モードで使用します。

➝ AUTO ➝ PCM ➝ DTS ➝ ANALOG

2 つづき

※ 入力ファンクションにTV/AUX1、AUX2を選んだ場合は、『ANALOG』は選択できません。

【入力モード選択機能について】

- DVD、TV/AUX1、AUX2の入力ファンクションについて選択することができます。
- 入力モードは、各入力ファンクションごとに選択ができます。また、選択された入力モードは入力ファンクションごとに記憶されます。
- 上記以外の入力ファンクションでは " ANALOG ONLY " と表示され、選択できません。

AUTO（オートモード）

- 選択された入力ファンクションごとにデジタル入力端子・アナログ入力端子に入力されている信号の種類を検出し、自動的に本機のサラウンドデコーダー内部のプログラムを切り替えて再生するモードです。
- デジタル信号の有無を検出して、入力されている信号を判断し、DTS/ドルビーデジタル/AAC/PCMいずれかの方式で自動的にデコードおよび再生をおこないます。
- デジタル信号が入力されていないDVDの場合は、アナログ入力端子を選択します。

PCM（PCM信号再生専用モード）

- PCM信号が入力されたときだけデコードおよび再生をおこないます。

DTS（DTS信号再生専用モード）

- DTS信号が入力されたときだけデコードおよび再生をおこないます。

ANALOG（アナログ音声信号再生専用モード）

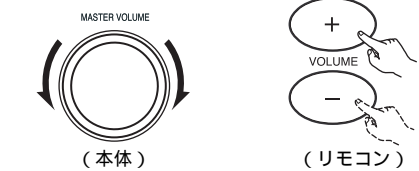
- アナログ入力端子に入力されている信号の再生をおこないます。（TV/AUX1、AUX2では選択できません。）

※ クイックセットアップの『ファンクション設定（FUNC. SETUP）』でTAPEをTV/AUX1に設定した場合は『ANALOG』も選択できます。

3 **本体のサラウンドモードボタンまたはリモコンのSURROUNDボタンを押してサラウンドモードを選択します。**

（本体）　（リモコン）

- 下記のように切り替わります。

AUTO DECODE ➝ *5CH STEREO ➝ HALL ➝ DOLBY VS STEREO ➝ DIRECT ➝ AUTO DECODE ---

- *印のモードは、クイックセットアップの『スピーカー設定（SPEAKER SETUP）』で6.1ch、7.1chに設定した場合、『M.CH STEREO』と表示されます。

次ページへつづく

サラウンド機能の操作のしかた（つづき）

4 **選択した機器の再生をはじめます。**

※ 操作のしかたは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

5 **本体の主音量調節つまみを回すか、またはリモコンの主音量調節ボタンを押して音量を調節します。**

DIGITAL DVD 40　音量がディスプレイに表示されます。

（本体）

（リモコン）

※ 音量は0（最小）～60（最大）の範囲で調節できます。但し、入力信号、サラウンドモード、スピーカー設定およびチャンネルレベルの設定によっては、音量が60まで調整できないことがあります。

DTSソースの再生をおこなう場合の入力モード

- DTS対応のCDを『PCM』モードで再生すると、DTS再生できないためノイズが出力されます。DTS対応のソースを再生する場合は、必ず入力モードを『AUTO』または『DTS』に設定してください。
- 『AUTO』モードでDTSを再生した場合、再生の始め、およびサーチ中にノイズを発生する場合があります。このような場合は、『DTS』モードで再生してください。

CDソースの再生をおこなう場合の入力モード

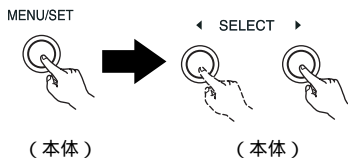
- 『AUTO』モードでライブ録音などのCDを再生した場合、再生の始めの音声が若干途切れる場合があります。このような場合は、『PCM』モードで再生してください。

◎ **入力モードの表示**

※ デジタル信号が正常に入力されると " DIG " が点灯します。点滅している場合は接続が正しいか、または入力機器の電源が入っているかを確認してください。

■ 再生しているプログラムソース、各種設定などを確認するには

◎ 本体のメニュー/セットボタンを押して " STATUS " を表示させてからセレクト◀,▶ボタンで表示します。

（本体）　（本体）

◎ セレクト◀,▶ボタン押すたびに、ディスプレイに現在のプログラムソースやサラウンドの各種設定が確認できます。

◎ ボタン操作を止めて数秒たつと表示が通常状態に戻ります。

サラウンド機能の操作のしかた（つづき）

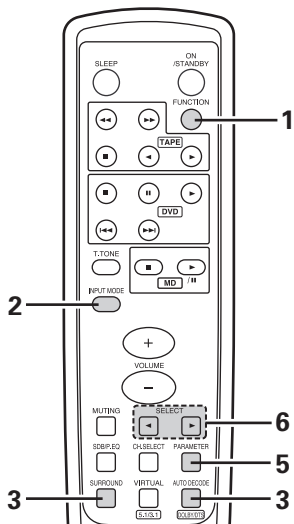
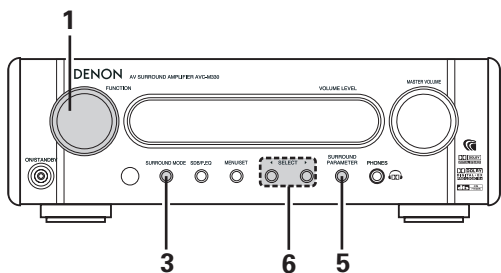
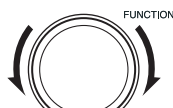
(3) オートデコードモードでの再生のしかた

★オートデコードモードでは入力された信号フォーマットに応じてドルビーデジタル、DTS、AACのマルチチャンネルソースに対して自動的にデコードし、マルチチャンネル再生ができます。
★2チャンネルソースに対しても2チャンネルモード設定によりオートステレオ、ドルビープロロジックII、DTS Neo:6で再生できます。

- オートステレオ　：ステレオ2チャンネル再生をします。
- ドルビープロロジックII　：シネマ、ミュージック、ゲームモードでマルチチャンネル再生します。
- DTS Neo:6　：シネマ、ミュージックモードでマルチチャンネル再生します。

1 ドルビーデジタル、DTS、AACサラウンドの再生（デジタル入力のみ）

◎ **適応ソース**

- デジタル入力（DVD、TV/AUX1、AUX2ファンクション）
  - ドルビーデジタルマルチチャンネルソース
  - DTSソース
  - AACマルチチャンネルソース

1 **デジタル入力ファンクションを選択します。（DVDまたはTV/AUX1、AUX2のデジタル入力）**

（本体）　（リモコン）

2 **入力モードを『AUTO』に設定します。**

※ DTSソースは入力モード『DTS』でも再生できます。

（リモコン）

3 **サラウンドモードを『AUTO DECODE』に設定します。**

（本体）　（リモコン）

- リモコンはAUTO DECODEボタンで選択できます。

4 **DOLBY DIGITAL、dts マークが付いたプログラムソースまたはAACのプログラムソースを再生します。**

- ドルビーデジタルソース再生中は、ドルビーデジタル表示が点灯します。　DIGITAL 点灯
- DTSソース再生中は、DTS表示が点灯します。　DTS 点灯
- AACソース再生中は、AAC表示が点灯します。　AAC 点灯

※ 再生ソースのフォーマットに応じて自動的に切り替わります。

5 **サラウンドパラメータボタンを押すとソースに合わせてサラウンドパラメーターを表示します。**

※ 調節できるパラメータが無い場合は表示されません。

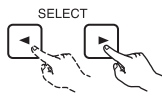
SURROUND PARAMETER　PARAMETER

（本体）　（リモコン）

次ページへつづく

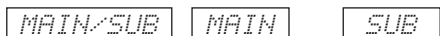
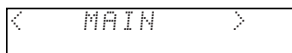
6 **各種サラウンドパラメーターを表示中にセレクト◄,►ボタンで設定します。**

※ パラメーター表示中に4秒間操作しないと、定常表示に戻ります。

（本体）

（リモコン）

◎ **二重音声の情報があるAACまたはドルビーデジタルソースを再生する場合**
音声出力内容を設定することができます。

● 二重音声出力モードが表示されます。

< MAIN >

MAIN/SUB ← MAIN → SUB

※ 二重音声ソースの時のみ表示され調節できます。

MAIN　　　：主音声が出力されます。
SUB　　　　：副音声が出力されます。
MAIN/SUB ：左チャンネルから主音声、右チャンネルから副音声が出力されます。

※ サラウンドパラメーターの設定が終了したら、ボタン操作を止めてください。数秒間経つと表示が通常状態に戻り、設定した内容は自動的に確定されます。

サラウンド機能の操作のしかた（つづき）

2 2チャンネルモードの設定（オートデコードモードでの2チャンネルソースの再生）

★ 入力信号が2chの場合には、2チャンネルモードの設定により3つのデコードモード（ドルビープロロジックⅡ、DTS Neo:6、オートステレオ）から選択して設定できます。

ドルビープロロジックⅡ ：2chソースをドルビープロロジックⅡ処理によりマルチチャンネル再生します。（アナログ入力の工場出荷設定：ドルビープロロジックⅡシネマ）

DTS Neo:6 ：2chソースをDTS Neo:6処理によりマルチチャンネル再生します。

オートステレオ ：2chソースを2chステレオ再生します。（デジタル入力の工場出荷設定）

◎ **適応ソース**

- デジタル入力（DVD、TV/AUX1、AUX2ファンクション）
  - ドルビーデジタル2chソース
  - AAC 2chソース
  - PCMソース（96kHzPCMソース以外）
- アナログ入力（DVD、MD、TAPEファンクション）
  - アナログ 2chソース

1 **オートデコードモード以外のときはサラウンドモードを『AUTO DECODE』にします。**

- "サラウンドモード" を表示した後、現在の2チャンネルモードを表示します。

- リモコンはAUTO DECODEボタンで選択できます。

2 **サラウンドパラメーターボタンを押して、2chモードを選択します。**

※ ドルビーデジタル、AACの5.1ch信号やDTS信号が入力されているときは、2chモードの設定はできません。

3 **セレクト◀,▶ボタンで希望する2chモードを選択します。**

- 押すごとに次のように切り替わります。

※ AUTO STはDVD、TV/AUX1、AUX2のデジタル入力で選択できます。（アナログ入力ではAUTO STは表示されません。）

※ DTS NEO:6C、DTS NEO:6Mはアナログ入力およびデジタル入力PCMソースで選択できます。

※ サラウンドパラメーターの設定が終了したら、ボタン操作を止めてください。数秒間経つと表示が通常状態に戻り、設定した内容は自動的に確定されます。

ご注意

- 2chモードはそれぞれのファンクションごとに設定し記憶されます。
- DTS NEO:6はアナログおよびデジタルのPCMソースを再生しているときのみ選択できます。
- DVD、MD、TAPEファンクションのアナログ入力を再生しているときは、2chモード「オートステレオ」は選択できません。ステレオ再生をおこなう場合は、サラウンドモードで「STEREO」を選択して下さい。

サラウンド機能の操作のしかた（つづき）

サラウンドパラメーターについて①（オートデコード2チャンネルモード）

1. AUTO-ST（オートステレオモード）

2chソースをステレオ2chで再生します。
オートデコードモードでこのモードを選択すると、DVDやBSデジタルなどのマルチチャンネルソースはマルチチャンネルのまま再生し、CDなどの2chソースは自動的にステレオで再生します。

2. DOLBY PLⅡ CINEMA / PLⅡ MUSIC / PLⅡ GAME

2chソースに対してもドルビープロロジックⅡ処理により、マルチチャンネルで再生します。

- **PLⅡ CINEMA（ドルビープロロジックⅡ シネマモード）**
  ドルビーサラウンド録音された映画ソースをはじめ、一般的なステレオ録音ソースの再生に適したモードです。高精度デコーダーによる5チャンネルデコードをおこない、2チャンネルソースでも360度均一なサラウンド音場を実現します。
  主にステレオ音楽成分を多く含むソースの場合、MUSICモードの方がより効果的な場合もあります。試聴結果によって、効果的なモードを選択してください。
- **PLⅡ MUSIC（ドルビープロロジックⅡ ミュージックモード）**
  ステレオ音楽信号のサラウンド再生に適したモードです。音楽信号の残響成分に多く含まれる逆相信号の再生をサラウンドチャンネルでおこない、同時にサラウンドチャンネルの周波数特性をサラウンド音に最適化させることにより、自然な、且つ広がり感のある音楽再生をおこないます。
- **PLⅡ GAME（ドルビープロロジックⅡゲームモード）**
  従来のMUSIC/CINEMAモードに加えて、ゲームに最適なGAMEモードに対応しています。
  GAMEモードは、2チャンネル音声に対してのみ使用できます。

3. DTS Neo:6 CINEMA/Neo:6 MUSIC

2chソースに対しても、DTS-ES Matrix6.1のデジタルマトリックスデコーダを応用したNeo:6処理により、マルチチャンネルで再生します。

- **DTS Neo:6 CINEMA（DTS ネオ：6シネマモード）**
  映画再生に最適なモードです。セパレーション特性を重視してデコードすることにより、2チャンネルソースでもマルチチャンネルで楽しむことが可能です。
  同相成分は主にセンター（C）に、逆位相成分はサラウンド（SL、SR）に振り分けられる特性を持つため、従来のサラウンド録音されたソース再生にも効果があります。
- **DTS Neo:6 MUSIC（DTS ネオ：6ミュージックモード）**
  主に音楽再生に適したモードです。フロントチャンネル（FL、FR）の信号はデコーダーを通らずそのまま再生されるため音質の変化が無く、さらにセンター（C）とサラウンド（SL、SR）チャンネルから出力されるサラウンド信号の効果により、音場にナチュラルな拡がり感が加わります。

- オートデコードモードで再生するとディスクや放送の内容によって再生モードが自動的に次のようになります。（入力モード『AUTO』、2チャンネルモード『AUTO ST』の時）

メディア	ソフトの内容		再生モード
DVD	ドルビーデジタル　5.1ch/6.1ch		5.1ch再生
	ドルビーデジタル　2ch（含むドルビーサラウンド2ch）		ステレオ再生（＊）
	DTSデジタル　5.1ch/6.1ch		5.1ch再生
デジタル放送	AAC	5.1chサラウンド	5.1ch再生
		2ch（含むドルビーサラウンド2ch）	ステレオ再生（＊）
CD	PCM　ステレオ		ステレオ再生（＊）

（＊）2chサラウンド（ドルビーサラウンド）やステレオのソフトを5.1chサラウンドで再生する場合は、2チャンネルモードを『AUTO ST』以外に設定をしてください。

サラウンド機能の操作のしかた（つづき）

（4）ドルビーバーチャルスピーカーモードでの再生のしかた

★ドルビーバーチャルスピーカーモードは、ドルビーラボラトリーズの立体音響技術です。
★フロント2chとサブウーハーの2.1chでマルチチャンネルサラウンドの音場を再生できるモードです。
★本機では2.1ch再生の2スピーカーモード以外に、センターチャンネルを加えた3.1ch再生の3スピーカーモードと5.1chで再生する5スピーカーモードが選択できます。（工場出荷設定：2スピーカーモード）
★2スピーカー、3スピーカーモードでは標準とワイドの2モードが選択できます。
★ドルビーデジタル、DTS、AACのマルチチャンネルソースだけでなく2チャンネルソースにも効果的です。2チャンネルソースに対しては、ドルビープロロジックIIシネマによるドルビーバーチャルスピーカー再生ができます。

1 ドルビーデジタル、DTS、AACのドルビーバーチャルスピーカー再生（デジタル入力のみ）

★適応ソース、操作のしかたは、29ページ『(3）オートデコードモードでの再生のしかた』の『1 ドルビーデジタル、DTS、AACサラウンド再生』と同様です。
- 操作3でサラウンドモードを『DD VS』に設定します。入力された信号フォーマットに応じてドルビーバーチャルスピーカー再生されます。（リモコンではVIRTUALボタンで選択できます。）
- ドルビーバーチャルスピーカー再生中にリモコンのVIRTUALボタンを押すと、2スピーカーモード、3スピーカーモード、5スピーカーモードの切り替えができます。

  2/3スピーカーモード　：フロント2chスピーカーの音場について標準モードとワイドモードが選択できます。サラウンドスピーカーの設置がむずかしいときに便利です。
  5スピーカーモード　　：5.1ch再生＋フロント2chスピーカー音場を拡げるワイドモードで再生します。フロントスピーカーの間隔が充分とれないときに便利です。
- 標準とワイドモードの切り替えは、操作5、6のサラウンドパラメータで選択します。
  操作6のセレクト◀,▶ボタンで下記のように切り替わります。
  2SP Ref. ↔ 2SP Wide (2スピーカーの例)

2 2チャンネルソースのドルビーバーチャルスピーカー再生

★2チャンネルソースでも、ドルビープロロジックIIシネマデコードによるドルビーバーチャルスピーカー再生ができます。
- 上記1と同様、2スピーカー/3スピーカーモード（標準とワイド）と5スピーカーモード（ワイド）再生ができます。

サラウンドパラメーターについて②（ドルビーバーチャルスピーカーモード）

1． Ref.（標準モード）
標準的なモードです。5スピーカーモードでは選択できません。

2． Wide（ワイドモード）
フロントチャンネルの音場を拡大します。

（5）DSPサラウンド再生のしかた

1 各サラウンドモードとその特長

★本機はデジタル信号処理により、音場を疑似的に再現する高性能なDSP（デジタル・シグナル・プロセッサー）を内蔵しています。なお、各サラウンドモードはアナログソースとPCM（96kHzソースを除く）ソースでお楽しみいただけます。

1	5CH STEREO（チャンネルステレオ） (M.CH STEREO)（マルチチャンネルステレオ）	サラウンド信号のLchにはフロントLchの信号、サラウンド信号のRch にはフロントRchの信号を出力し、センターchにはLchとRchの同相成分を出力します。ステレオサウンドを楽しむためのモードです。6.1ch、7.1ch設定時はM. CH STEREOとなります。
2	HALL（ホール）	反射音が回り込んでくるコンサートホールの雰囲気で楽しみたいときに使用します。

※ 再生するソースによっては、十分な効果が得られないことがあります。

サラウンド機能の操作のしかた（つづき）

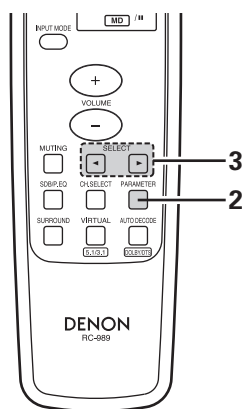
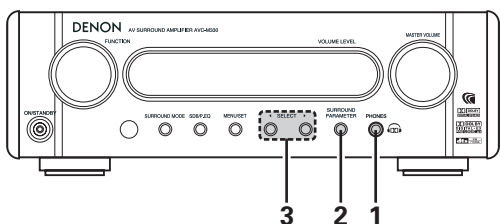
パーソナルメモリープラスについて

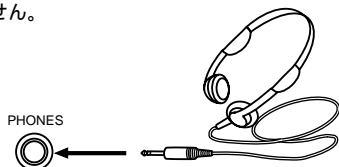
本機には、入力ファンクションごとに選択されたサラウンドモードなどが自動的に記憶される『パーソナルメモリープラス』という機能を搭載しています。入力ファンクションを切り替えるたびに、前回使用されたときの記憶が自動的に呼び出されます。

◎ パーソナルメモリープラス機能で各入力ファンクションごとに自動的に記憶される内容
①サラウンドモード（2chモード設定も含む）　②入力モード選択機能

※ サラウンドパラメーターおよびSDB/プリセットイコライザーの設定、各出力チャンネルの再生レベルは、サラウンドモードごとに記憶します。

（6）ドルビーヘッドホンでの再生のしかた

★ 本機はドルビーラボラトリーズとレイクテクノロジー社との共同開発によるヘッドホン再生における立体音響技術であるドルビーヘッドホンモードを搭載しています。
★ 本機のヘッドホン端子にヘッドホンプラグを挿入するとドルビーヘッドホンモードになります。（ステレオ、ダイレクトも選べます。）
★ ドルビーヘッドホンモードは、音場効果によりDH1、DH2、DH3のモードと通常のステレオ再生をするBYPASSの4モードが選択できます。
★ ドルビーデジタル、DTS、AAC、のマルチチャンネルソースに対応しており、2チャンネルソースに対しても2チャンネルモード設定により、シネマとミュージックモードでのドルビーヘッドホン再生が選択できます。

1 **ヘッドホンジャックにヘッドホン（別売り）を差し込みます。**

● ヘッドホンプラグを差し込むと自動的にスピーカー出力がOFFとなり、スピーカーより音は出ません。

2 **サラウンドパラメーターボタンを押してサラウンドパラメーターを表示させます。**

3 **各種サラウンドパラメーターを設定します。**

※ パラメーター表示中に4秒間操作しないと定常表示に戻ります。

● **DOLBY Hモードの設定**

● **2チャンネルモードの設定（2チャンネルソースのみ）**

※ 通常の2chステレオで再生したい場合は、サラウンドモードスイッチで ” STEREO ” または ” DIRECT ” モードが選択できます。
ヘッドホーン使用時は、サラウンドモードボタンを押すごとに下記のように切り替わります。

DOLBY H → STEREO → DIRECT → DOLBY H

サラウンド機能の操作のしかた（つづき）

サラウンドパラメーターについて③

DOLBY H（ドルビーヘッドホンモード）

DH1 ……………リファレンスルーム
（小さな残響音の少ない部屋）

DH2 ……………ライブな部屋
（DH1よりやや残響間の多い部屋）

DH3 ……………大きな部屋
（DH1より大きな部屋で距離感や音の拡散効果が得られます。）

BYPASS ………ステレオ再生になります。

2チャンネルモード

アナログ、PCMなど2チャンネルソースを再生中に選択できます。下記デコーダーでマルチチャンネル化してからドルビーヘッドホンで再生します。

CINEMA ………ドルビープロロジックⅡシネマモード

MUSIC…………ドルビープロロジックⅡミュージックモード

(7) その他の操作のしかた

1 音質を調節するには

1 **SDB/プリセットイコライザーボタンを押します。**

- ボタンを押すたびに下記のように切り替わります。

SDB/P.EQ

（本体）

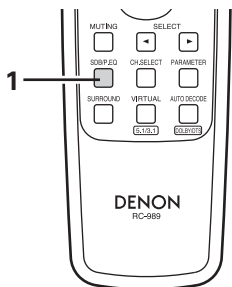
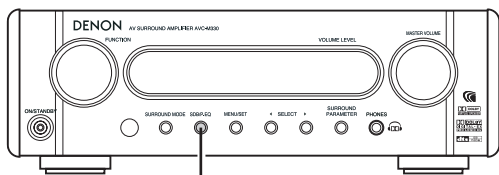
SDB/P.EQ

（リモコン）

SDB ON → DRC ON → P.EQ1 → P.EQ2 → P.EQ3 → DEFEAT → SDB ON

お好みに合わせて選択します。

◎ **DEFEAT表示のとき**
SDB、DRC、プリセットイコライザーともOFFになります。

◎ **SDB ONのとき**
SDB（スーパーダイナミックバス）をONにし、迫力ある重低音が楽しめます。

1 つづき

◎ **DRC ONのとき**
DRC（ダイナミックレンジコンプレッション）をONにします。ドルビーデジタル、DTS音声のダイナミックレンジを抑え、深夜など小さな音量で再生するときに便利です。（DTSソースの場合、DRC対応のソフトのみ表示されます。
ソフトによっては効果がわかりにくい場合があります。）

◎ **P.EQ1〜3（プリセットイコライザー1〜3のとき）**
低音と高音のバランスとサラウンドチャンネルのディレイを3種類プリセットしました。お好みに応じて選択して下さい。

※ 各表示で約4秒間操作しないとディスプレイ表示は元の表示に戻ります。

2 一時的に音を消すには（ミューティング）

1 **MUTEボタンを押します。**

※ 解除するときは、もう一度MUTEボタンを押してください。

MUTING

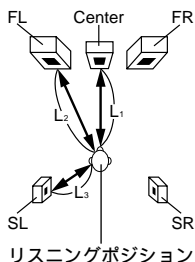
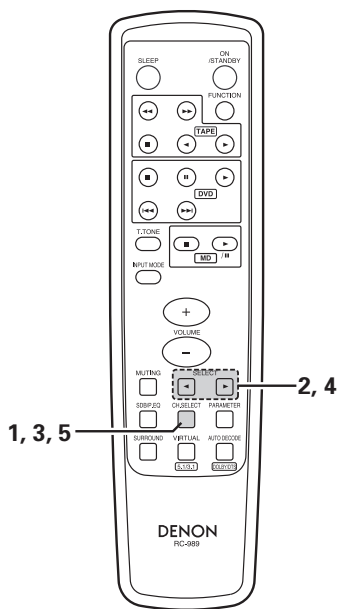
（リモコン）

ご注意

- 本体の主音量調節つまみやリモコンの主音量調節ボタンを操作すると解除されます。
- 本機の電源をOFFにすると設定が解除されます。

3 ディレイタイムの設定（距離の設定）

★ より正確なサラウンド再生をおこなうためには、各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を設定します。
★ リスニングポジションと各スピーカーとの距離を入力して、サラウンドのディレイタイムを設定します。
★ 工場出荷時は20ページ『クイックセットアップ』のルーム設定で設定されています。

準備：リスニングポジションと各スピーカーとの距離（下図のL1〜L3）を測定します。

L1： センタースピーカーと
リスニングポジションとの距離
L2： フロントスピーカーと
リスニングポジションとの距離
L3： サラウンドスピーカーと
リスニングポジションとの距離

1 **リモコンのCH.SELECTボタンを押します。**
● 下記が表示されます。

LEVEL</>DELAY

CH.SELECT（リモコン）

2 **上記表示中にセレクト▶ボタンでDELAYを選択します。**
● 下記のレベル表示となります。

FRT/SW< 1.8m>

（リモコン）

3 **リモコンのCH.SELECTボタンを押し、距離設定するスピーカーを選択します。**

CH.SELECT（リモコン）

※ CH.SELECTボタンを押すたびに次のように切り替わります。

フロント/SW → センター → サラウンド → （END） → フロント/SW

● 6.1/7.1ch設定時にはサラウンドバックも選択調整できます。
● サラウンドモードによって設定するチャンネル選択表示が変わります。

4 **ディレイタイム表示中にセレクト◀,▶ボタンでスピーカーとリスニングポジションとの距離を設定します。**

SELECT（リモコン）

● セレクトボタン（◀,▶）を押すたびに数値が0.3m単位で変化しますので、測定した距離に最も近い値を選択してください。

※ 各スピーカーに設定した距離の差はどれも4.5m以下にしてください。
不適切な距離を設定すると距離表示が点滅しますので、スピーカーの位置を変更して再設定してください。

5 **設定が終了したらCH.SELECTボタンでENDを選択します。数秒間操作しないと終了します。**
● 表示が通常状態に戻ります。

CH.SELECT（リモコン）

リニアPCM96kHz ソースの場合について

● 自動的に『DIRECT』モードで再生されます。
● サラウンドモードは『STEREO』および『DIRECT』モードのみ選択できます。

サラウンド機能の操作のしかた（つづき）

サラウンドモードパラメーター一覧表(1)

サラウンドモード DVS：Dolby Virtual Speaker DH：Dolby Headphone		各モードにおける信号の有無と制御の可否				
		スピーカー			スピーカー /プリアウト	プリアウト
		FRONT L/R	CENTER	SURROUND L/R	SUB WOOFER	SURROUND BACK L/R
A	DOLBY DIGITAL	○	○	○	○	×
U	DTS SURROUND	○	○	○	○	×
T	MPEG2-AAC	○	○	○	○	×
O	DOLBY PLⅡ	○	○	○	○	×
	AUTO STEREO	○	×	×	○	×
D	DTS NEO:6	○	○	○	○	△
E	DOLBY PLⅡx	△	△	△	△	△
C	DOLBY DIGITAL EX/+PLⅡx	△	△	△	△	△
O	DTS SURR.+NEO:6	△	△	△	△	△
D	DTS-ES DISCRETE/MATRIX	△	△	△	△	△
E	AAC+DOLBYD. EX/PLⅡx	△	△	△	△	△
D	2SPEAKER MODE	○	×	×	○	×
V	3SPEAKER MODE	○	○	×	○	×
S	5SPEAKER MODE	○	○	○	○	×
	DH1	○(H/P のみ)	×	×	×	×
D	DH2	○(H/P のみ)	×	×	×	×
H	DH3	○(H/P のみ)	×	×	×	×
	BYPASS	○(H/P のみ)	×	×	×	×
	STEREO	○	×	×	○(H/P時×)	×
	DIRECT	○	×	×	○(H/P時×)	×
	5CH STEREO	○	○	○	○	×
	M.CH STEREO	△	△	△	△	△
	HALL	○	○	○	○	△

サラウンドモードパラメーター一覧表(2)

サラウンドモード DVS：Dolby Virtual Speaker DH：Dolby Headphone		各モードにおける信号の有無と制御の可否							
		入力ファンクションごとの再生信号とサラウンドモード							
		DVD,TV/AUX1,AUX2							DVD,MD TAPE
		DOLBY DIGITAL 信号再生時		DTS 信号再生時	AAC 信号再生時		PCM 信号再生時		アナログ 信号再生時
		2ch	マルチ/EX	マルチ/-ES	2ch	マルチch	2ch	Fs：96kHz	2ch
A	DOLBY DIGITAL	×	○	×	×	×	×	×	×
U	DTS SURROUND	×	×	○	×	×	×	×	×
T	MPEG2-AAC	×	×	×	×	○	×	×	×
O	DOLBY PLⅡ	●PLⅡ	×	×	●PLⅡ	×	●PLⅡ	×	●PLⅡ
	AUTO STEREO	●	×	×	●	×	●	×	●
D	DTS NEO:6	×	×	×	×	×	●NEO:6	×	●NEO:6
E	DOLBY PLⅡx	●PLⅡx	×	×	●PLⅡx	×	●PLⅡx	×	●PLⅡx
C	DOLBY DIGITAL EX/+PLⅡx	×	●PLⅡx	×	×	×	×	×	×
O	DTS SURR.+NEO:6	×	×	●NEO:6	×	×	×	×	×
D	DTS-ES DISCRETE/MATRIX	×	×	○FLAG	×	×	×	×	×
E	AAC+DOLBYD. EX/PLⅡx	×	×	×	×	●PLⅡ x	×	×	×
D	2SPEAKER MODE	○	○	○	○	○	○	×	○
V	3SPEAKER MODE	○	○	○	○	○	○	×	○
S	5SPEAKER MODE	○	○	○	○	○	○	×	○
	DH1	●PLⅡ	○	○	●PLⅡ	○	●PLⅡ	×	●PLⅡ
D	DH2	●PLⅡ	○	○	●PLⅡ	○	●PLⅡ	×	●PLⅡ
H	DH3	●PLⅡ	○	○	●PLⅡ	○	●PLⅡ	×	●PLⅡ
	BYPASS	○	○D.MIX	○D.MIX	○	○D.MIX	○	×	○
	STEREO	○	○D.MIX	○D.MIX	○	○D.MIX	○	○	○
	DIRECT	○	○D.MIX	○D.MIX	○	○D.MIX	○	○	○
	5CH STEREO	×	×	×	×	×	○	×	○
	M.CH STEREO	×	×	×	×	×	○	×	○
	HALL	×	×	×	×	×	○	×	○

：クイックセットアップで 5.1CH時のみ使用可能なモード。

：クイックセットアップで6.1CH、7.1CH選択時のみ使用可能なモード。

△：クイックセットアップで6.1CH、7.1CH選択時使用可。6.1CH時：SBはSBLプリアウト使用1ch、7.1CH時：SBL/SBRプリアウト使用2ch対応。

○：再生信号あり。または選択可能。

●：パラメーターによりモード選択可能。
→詳細は一覧表(3)(4)参照。

×：再生信号無し。または選択不可能。

D.MIX ：ダウンミックス処理して対応。

FLAG ：DTS ES DISCRETE（ディスクリート）FLAG、MATRIX（マトリックス）FLAGにて自動選択。

PLⅡ ：DOLBY PLⅡ処理により対応。　PLⅡx：DOLBY PLⅡx処理により対応。

NEO:6 ：DTS NEO:6処理により対応。

サラウンド機能の操作のしかた（つづき）

サラウンドモードパラメーター一覧表(3)

	サラウンドモード DVS：Dolby Virtual Speaker DH：Dolby Headphone	各モードにおける信号の有無と制御の可否							
		SDB/P.EQ (初期設定：DEFEAT=全てOFF)			サラウンドパラメーター				
					2CHモード		DHモード	DVSモード	AACモード
		SDB ON	DRC ON *1	P.EQ1/2/3	デジタル 2chソース	アナログ 2chソース	DH1/2/3 /BYPASS	フロントch Ref./Wide	二重音声 MAIN/SUB
A	DOLBY DIGITAL	○	○	○	○*2 (AUTO ST)	×	―	―	―
U	DTS SURROUND	○	○	○		×	―	―	―
T	MPEG2-AAC	○	×	○		×	―	―	○*7 (MAIN)
O	DOLBY PLII	○	○	○		○*3(PLIIC)	―	―	―
	AUTO STEREO	○	○	○		×	―	―	―
D	DTS NEO:6	○	○	○		○*3	―	―	―
E	DOLBY PLIIx	○	○	○	×	×	―	―	―
C	DOLBY DIGITAL EX /+PLIIx	○	○	○	×	×	―	―	―
O	DTS SURR+NEO:6	○	○	○	×	×	―	―	―
D	DTS-ES DISCRETE/MATRIX	○	○	○	×	×	―	―	―
E	AAC+DOLBYD. EX/PLIIx	○	×	○	×	×	―	―	―
D	2SPEAKER MODE	○	○	○	CINEMAのみ	CINEMAのみ	―	○*6 (Ref.)	―
V	3SPEAKER MODE	○	○	○			―	○*6 (Ref.)	―
S	5SPEAKER MODE	○	○	○			―	Wideのみ	―
	DH1	○	×	○	○*4 (CINEMA)	○*4 (CINEMA)	○*5 (DH1)	―	―
D	DH2	○	×	○				―	―
H	DH3	○	×	○				―	―
	BYPASS	○	×	○	×	×		―	―
	STEREO	○	○	○	×	×	―	―	―
	DIRECT	×	×	×	×	×	―	―	―
	5CH STEREO	○	×	○	×	×	―	―	―
	M.CH STEREO	○	×	○	×	×	―	―	―
	HALL	○	×	○	×	×	―	―	―

サラウンドモードパラメーター一覧表(4)　6.1CH/7.1CH設定時のパラメーター詳細

	サラウンドモード DVS：Dolby Virtual Speaker DH：Dolby Headphone	各モードにおける信号の有無と制御の可否 6.1CH/7.1CH設定時の各再生ソースとサラウンドパラメーター選択							
		PCM	アナログ	DOLBY DIGITAL/D.D. EX		DTS/DTS-ES		AAC	
		6.1/7.1設定	6.1/7.1設定	6.1CH設定	7.1CH設定	6.1CH設定	7.1CH設定	6.1CH設定	7.1CH設定
2	AUTO STEREO	◎	◎	◎	◎	―	―	◎	◎
ch	DTS NEO:6 CINEMA	○	○	×	×	―	―	×	×
ソ	DTS NEO:6 MUSIC	○	○	×	×	―	―	×	×
｜	DOLBY PLIIxCINEMA	○	○	○	○	―	―	○	○
ス	DOLBY PLIIxMUSIC	○	○	○	○	―	―	○	○
	DOLBY PLIIxGAME	○	○	○	○	―	―	○	○
	DOLBY DIGITAL EX	―	―	◎	○	―	―	―	―
マ	DOLBY DIGITAL+PLIIx C	―	―	×	◎	―	―	―	―
ル	DOLBY DIGITAL+PLIIx M	―	―	○	○	―	―	―	―
チ	DTS SURROUND	―	―	―	―	◎	◎	―	―
ch	DTS SURR+NEO:6	―	―	―	―	○	○	―	―
ソ	DTS-ES DISCRETE	―	―	―	―	○*FLAG	○*FLAG	―	―
｜	DTS-ES MATRIX	―	―	―	―	○*FLAG	○*FLAG	―	―
ス	AAC+DOLBYDIGITAL EX	―	―	―	―	―	―	◎	○
	AAC+DOLBYPLIIx C	―	―	―	―	―	―	×	◎
	AAC+DOLBYPLIIx M	―	―	―	―	―	―	○	○

：クイックセットアップで 5.1CH時のみ使用可能なモード。

：クイックセットアップで6.1CH、7.1CH選択時のみ使用可能なモード。

○ ：再生信号あり。または選択が可能。

× ：再生信号無し。または選択不可能。

― ：該当せず。

( ) ：パラメーター工場出荷初期設定値

*1 ：DOLBYおよびDTSのDRC（ダイナミックレンジ圧縮）対応ソフトのみ選択可能。

*2 ：オートステレオ、DOLBY PLIIシネマ、PLIIミュージック、PLIIゲームを選択可能。
PCMソース(Fs96kHz以外)はDTS NEO:6シネマ、NEO:6ミュージックも選択可能。

*3 ：DOLBY PLIIシネマ、PLIIミュージック、PLIIゲーム、DTS NEO:6シネマ、NEO:6ミュージックを選択可能。

*4 ：シネマ（DOLBY PLIIシネマ）、ミュージック（PLIIミュージック)を選択可能。

*5 ：DH1、DH2、DH3、BYPASSを選択可能。

*6 ：標準(Reference)、ワイド（Wide）を選択可能。

*7 ：MAIN（主音声）、SUB（副音声）、MAIN/SUB（主/副音声）を選択可能。

◎ ：クイックセットアップで6.1CH、7.1CH選択時の工場出荷初期設定値。

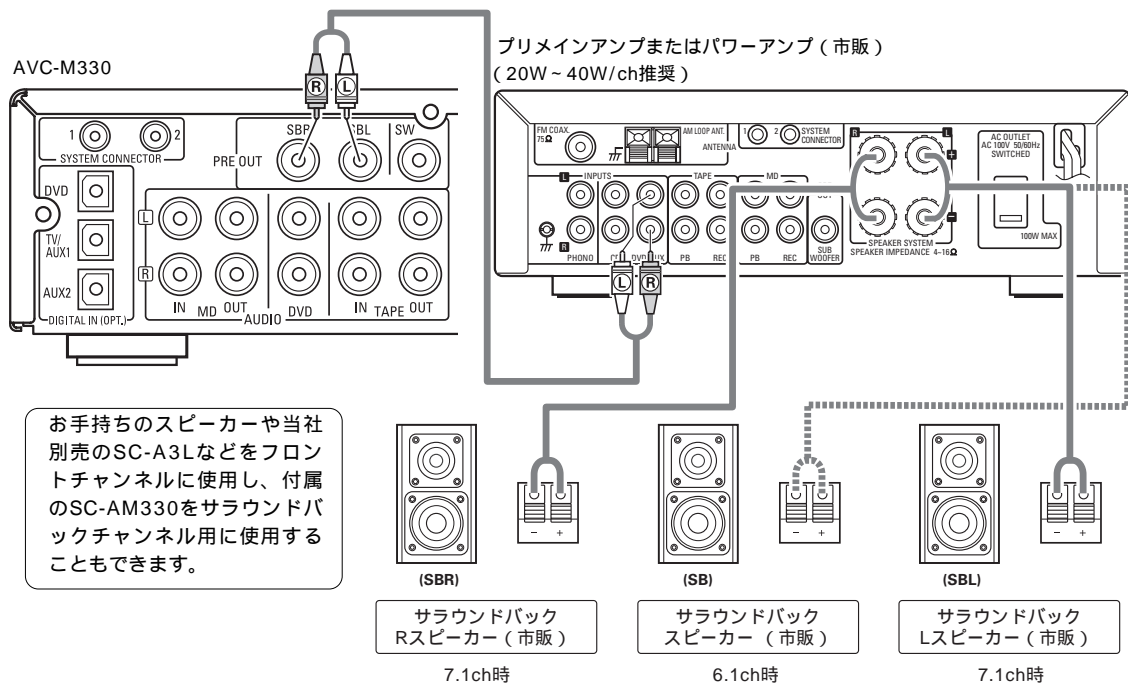
*FLAG：DTS ES DISCRETE（ディスクリート) FLAG、MATRIX（マトリックス) FLAGにて自動選択。

12 6.1/7.1チャンネルホームシアターへの拡張

★本機は、ドルビーデジタルEX、DTS-ES、ドルビープロロジックⅡxといった6.1チャンネル、7.1チャンネル再生に対応したデコーダー機能を持っており、サラウンドバックチャンネル（SBL/SBR）のプリアウト端子を搭載しています。
★同時にサブウーハーチャンネル用のプリアウト端子も装備しており、市販のアンプ内蔵スーパーウーハーを使用してグレードアップを図ることができます。（サブウーハープリアウト端子は常時出力されています。）
★本機に別売りのステレオアンプとサラウンドバック用スピーカーシステムを組み合わせて、6.1チャンネルまたは7.1チャンネルサラウンドシステムに発展することができます。
★また、別売りの3.1chアンプ内蔵スーパーウーハー（DSW-3.1やDSW-ME55）とスピーカーシステム（SYS-3.1やSYS-ME55）と組み合わせて、アクティブスーパーウーハーを使用した6.1チャンネルまたは7.1チャンネルサラウンドシステムにすることができます。

（1）6.1/7.1チャンネルの拡張接続のしかた

■市販のアンプとスピーカーを使用する場合

- フロントL、フロントR、センター、サラウンドL、サラウンドRはDHT-M330の接続で使用します。
- 6.1ch時は、本機のSBLプリアウトを使用して、アンプとサラウンドバックスピーカー1本を接続します。
- 7.1ch時は、本機のSBL/SBRプリアウトを使用して、アンプとサラウンドバックスピーカー2本を接続します。

■別売りのDSW-3.1、SYS-3.1またはDSW-ME55、SYS-ME55を使用する場合

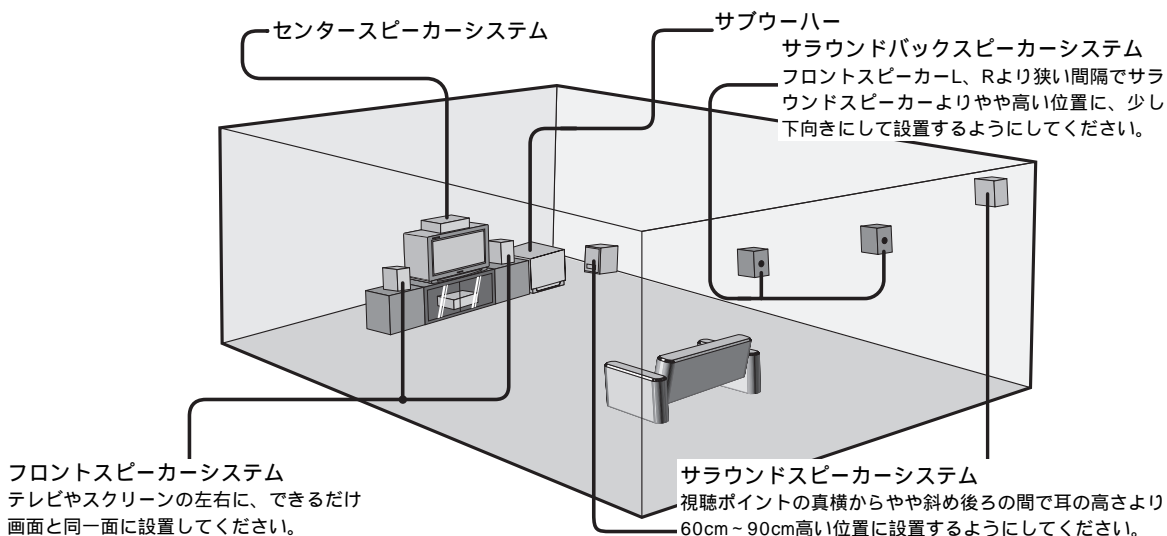
- フロントL、フロントR、センター、サラウンドL、サラウンドRはDHT-M330の接続で使用します。
- サブウーハーchは、本機のSW（サブウーハー）プリアウトをDSW-3.1またはDSW-ME55付属の紫色ピンプラグコードでSW INPUTへ接続します。（DSW-M330のスーパーウーハーははずします。）
- 6.1ch時は、本機のSBLプリアウトをDSW-3.1またはDSW-ME55付属の青色ピンコードでSL（SBL）INPUTへ接続し、サテライトスピーカーSL（SBL）を接続してサラウンドバックチャンネルとして使用します。
- 7.1ch時は、本機のSBL/SBRプリアウトをDSW-3.1付属の青/灰色ピンコードでSL（SBL）/SR（SBR）INPUTへ接続し、サテライトスピーカーSL（SBL）とSR（SBR）を接続してサラウンドバックL/Rとして使用します。

ご注意

- すべての接続が終わるまで、電源プラグをコンセントに差し込まないでください。
- 接続は各機器の取扱説明書を参照ください。

6.1/7.1チャンネルホームシアターへの拡張（つづき）

（2）6.1/7.1チャンネルスピーカーのレイアウト

★ スピーカーシステムのレイアウト
基本的なシステムレイアウト
- スピーカーシステム（8台）とテレビを組み合わせた基本的なシステムレイアウトの例です。

■セッティングの前に……ソースごとに異なる最適なサラウンド再生

現在、マルチチャンネル信号、すなわち2チャンネル以上のチャンネルを持つ信号（フォーマット）にはさまざまな種類があります。

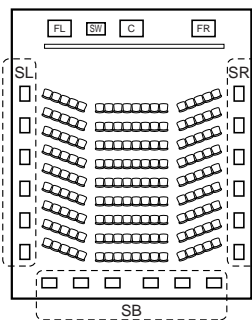
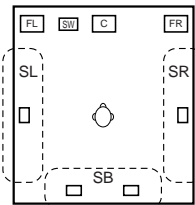
★ マルチチャンネル信号の種類

ドルビーデジタル、ドルビープロロジック、DTS-ES、ハイビジョン3-1信号、DVD-Audio、 スーパーオーディオCD、MPEGマルチチャンネルオーディオなど

しかし、ここでいう『ソース』というのはこれら信号の種類（フォーマット）ではなく、そこに記録されている信号の中味（ジャンル）のことで、これらは大別すると下の2つに分けられます。

★ ソースの種類

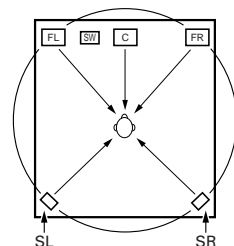
- 映画の音声：映画館にて上映されることを前提にしてつくられた信号です。ドルビーデジタルやDTSといったフォーマットによらず、多数のサラウンドスピーカーを使用する映画館の環境に合わせた録音がおこなわれているのが一般的です。

映画館の音場

マルチサラウンドスピーカー（6.1chシステムの場合）

サラウンドチャンネルに対して、映画館と同様の広がり感を持たせることが重要になります。そのため、サラウンドスピーカーの数を増やしたり（4～8本程度）、ダイポール特性を持つものを使用したりといった工夫がされる場合もあります。

SL：サラウンドLチャンネル
SR：サラウンドRチャンネル
SB：サラウンドバックチャンネル

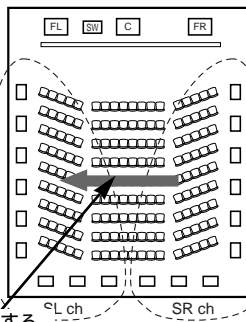
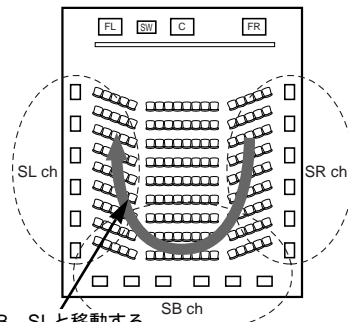
6.1/7.1チャンネルホームシアターへの拡張（つづき）

● その他の音声：3〜5本程度のスピーカーを用いて360°の音場を再現することを目的につくられた信号です。

各チャンネルのスピーカーが円を描くようにリスナーを囲み、360°均一な音場をつくることがポイントで、理想的には、サラウンドスピーカーもフロントと同様に『点』音源として機能させる必要があります。

これら2種類のソースにはそれぞれ以上のような特徴があり、理想的な再生のためのスピーカーのセッティング、特にサラウンドスピーカーのセッティングには、互いに異なる部分があります。

★ サラウンドバックスピーカーについて

6.1chシステムよって、従来の5.1chシステムに加えて新たに『サラウンドバック（SB）チャンネル』が生まれました。これによって、従来のマルチサラウンドスピーカーに合わせてサラウンドデザインされていたために出し難いとされていた真後ろへの定位を容易に実現できるようになりました。同時に側方から後方にかけての音像が絞られ、側方から後方へ回り込む音、正面から真後ろへ移動する音など、サラウンド信号の表現力が大幅に向上しました。

5.1chシステムによる定位・音像の変化

6.1chシステムによる定位・音像の変化

サラウンドバックスピーカーを追加することにより6.1chで録音されたソースだけでなく、従来の2〜5.1chソースでもよりサラウンド効果を高めることができます。本機は従来のドルビーサラウンド録音ソースやドルビーデジタル5.1ch、DTSサラウンド5.1chソースにおいて、サラウンドバックスピーカーを用いた最大7.1chのサラウンド再生を実現します。

★ サラウンドバックスピーカーの本数について

サラウンドバックチャンネルは、6.1chソース（DTS-ESなど）においては1chの再生信号ですが、2本のスピーカーを使用することを推奨します。特にダイポール特性のスピーカーを使用する場合は、2本使用することが必須となります。

2本使用することにより、1本だけ使用した場合に比べてサラウンドチャンネルとの音のつながりやオフセンターで聞いた場合のサラウンドバックチャンネルの定位感を向上させることができます。

★ サラウンドバックスピーカーを使用する場合のサラウンドL、Rチャンネルの設置について

サラウンドバックスピーカーを使用することによって、後方の定位感が大幅に向上します。そのためサラウンドL、Rチャンネルの役割は、前後の音像のスムーズなつながりが重要になってきます。上図にもあるように、映画館におけるサラウンド信号は、リスナーの前方側面からも再生され、空間を漂うような音像を実現します。

これらを再現するため、サラウンドL、Rチャンネルのスピーカーを従来よりやや前寄りに設置することを推奨します。なお、この場合従来の5.1chソースを6.1サラウンドモードで再生することによってサラウンド効果が高まる場合があります。サラウンドモードの選択は、それぞれのサラウンド効果を確認して決定してください。

6.1/7.1チャンネルホームシアターへの拡張（つづき）

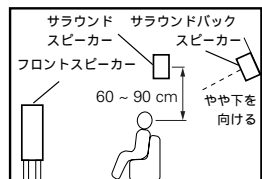
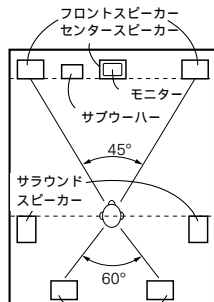
■ スピーカーセッティング例

次にさまざまな目的に応じたスピーカーのセッティング例をご紹介します。これらを参考にお手持ちのスピーカーの種類や主に使用される用途に合わせてセッティングをおこなってください。

1．　6.1chサラウンド（DTS-ES等）システム
（サラウンドバックスピーカーを使用）の場合

《側面から見た図》

（1）　映画再生をメインにおこなう、基本的なセッティング

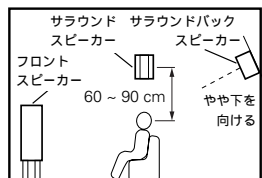
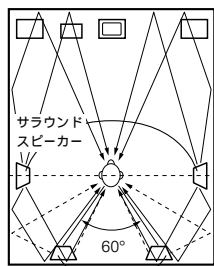
映画再生がメインで、サラウンドスピーカーに通常のシングルウェイや2ウェイスピーカーを使用する場合におすすめします。

《上面から見た図》

- フロントスピーカーはできるだけテレビやスクリーンと同一面で、センタースピーカーは左右のフロントスピーカーの間で、視聴ポイントからフロントスピーカーまでの距離より遠くならないところに置きます。
- サブウーハーの置き場所の制限は特にありませんが、スクリーンと同一面にあった方が理想的です。
- サラウンドスピーカーは視聴ポイントの真横からやや斜め後の間で、耳の高さより60〜90cm高い位置に、壁と平行に設置します。
- サラウンドバックスピーカーは、2本設置する場合は後方から前向きにフロントL、Rよりも狭い角度で、1本設置する場合は真後ろから前向きに、サラウンドスピーカーよりやや高い位置に設置します。（サラウンドスピーカー ＋0〜20cmの高さで）
- サラウンドバックスピーカーは、やや下向きに角度をつけて設置することを推奨します。これはサラウンドバックチャンネルの信号がフロント中央のモニターやスクリーンで反射して干渉し、前後の移動感があいまいになることを防ぐのに効果的です。

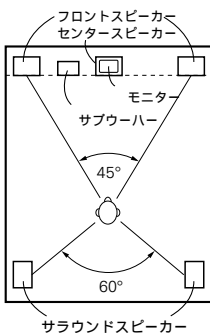
（2）　映画再生をメインにおこない、
サラウンドスピーカーに拡散型スピーカーを使用する場合

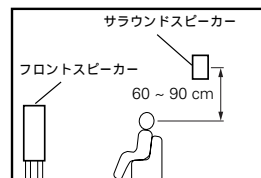
サラウンド音の視聴ポイントに到達するイメージ

《上面から見た図》

映画再生をより効果的におこなうために、サラウンドスピーカーにダイポール特性やトライポール特性などを持つ、拡散音場型のスピーカーを用いる場合は、サラウンドスピーカーの設置場所を（1）に比べてやや前寄りにします。

《側面から見た図》

- フロントスピーカー、センタースピーカー、サブウーハーの設置方法は（1）と同様です。
- サラウンドスピーカーは視聴ポイントの真横かやや前よりが望ましく、耳の高さより60〜90cm高い位置に設置します。
- サラウンドバックスピーカーの設置方法は、（1）と同様です。また、サラウンドバックスピーカーにもダイポール特性のスピーカーを用いた方がより効果的です。
- サラウンドチャンネルの信号は、左図のように室内の壁から反射音を伴って、広がりを持った音となります。

2．　サラウンドバックスピーカーを使用しない場合

《上面から見た図》

- フロントスピーカーはできるだけテレビやスクリーンと同一面で、センタースピーカーは左右のフロントスピーカーの間で、視聴ポイントからフロントスピーカーまでの距離より遠くならないところに置きます。
- サブウーハーの置き場所の制限は特にありませんが、スクリーンと同一面にあった方が理想的です。
- サラウンドスピーカーは視聴ポイントの真横からやや斜め後の間で、耳の高さより60〜90cm高い位置に、壁と平行に設置します。

《側面から見た図》

6.1/7.1チャンネルホームシアターへの拡張（つづき）

（3）6.1/7.1チャンネルサラウンド再生をする。

1 クイックセットアップの変更

★『クイックセットアップのしかた』（20ページ）の『SPEAKER SETUP』で使用する構成『6.1CH』または『7.1CH』を選びます。

2 テストトーンによる再生レベルの確認と調節

★ 再生の前にテストトーンにより、各スピーカーの再生レベルの確認と調整をおこないます。
『11 サラウンド機能の操作のしかた』（26ページ）の『1 テストトーンによる再生レベルの確認と調節』または『2 再生中のチャンネルレベルの調節』によって設定してください。
- 6.1CH、7.1chのスピーカー設定により、サラウンドバックチャンネルも表示され設定できます。

3 ディレイタイムの設定（距離の設定）

★ 各スピーカーからの距離を『11 サラウンド機能の操作のしかた』（36ページ）の『3ディレイタイムの設定（距離の設定）』によって設定してください。
- 6.1ch、7.1chのスピーカー設定により、サラウンドバックチャンネルも表示され設定できます。

4 オートデコードモードでのサラウンド再生について

★ 6.1ch/7.1ch設定では、ドルビーデジタルEX、DTS-ES、ドルビープロロジックIIxのデコード再生が可能になります。
- 29ページ『1 ドルビーデジタル、DTS、ACCサラウンド再生』において、ドルビーデジタル、AACのマルチchソースは、ドルビーデジタルEXまたはドルビープロロジックIIxにより6.1chまたは7.1ch再生します。
DTSソースについては、DTS-ESまたはNeo:6により6.1chまたは7.1ch再生します。
- 2chソースについては、31ページ『2 2チャンネルモードの設定』で DD PLIIに代わり、 DD PLIIxのサラウンドパラメーターになります。
- ドルビーデジタルEX、DTS-ESのソースを再生した場合は、ディスプレイに『 DD EX』、『DTS-ES』が表示され、6.1chまたは7.1ch再生されます。
- ドルビープロロジックIIxでのデコード時は、ディスプレイにさらに『 DD PLIIx』が表示され、6.1chまたは7.1ch再生されます。
- DTS Neo:6でのデコード時は、『Neo:6』が表示されます。
- 再生ソースとサラウンドモードは、37、38ページ『サラウンドモードパラメーター覧表』を参照ください。

★ 各ソースでの再生モードはサラウンドパラメーターにより選択できます。（下記）
- ドルビーデジタルEX
6.1ch時：ドルビーデジタルEX、ドルビーデジタル＋PLIIxミュージック
7.1ch時：ドルビーデジタルEX、ドルビーデジタル＋PLIIxシネマ、ドルビーデジタル＋PLIIxミュージック
- AAC
6.1ch時：AAC＋ドルビーデジタルEX、AAC＋PLIIxミュージック
7.1ch時：AAC＋ドルビーデジタルEX、AAC＋PLIIxシネマ、AAC＋PLIIxミュージック
- DTS
6.1ch/7.1ch時：DTSサラウンド、DTS＋NEO:6
- DTS-ES
6.1ch/7.1ch時：なし（フラグによりDTS-ESディスクリートまたはDTS-ESマトリクス固定）
- アナログ、デジタル（PCM、ドルビーデジタル、AAC）2chソース
6.1ch/7.1ch時：オートステレオ、PLIIxシネマ、PLIIxミュージック、PLIIxゲーム
アナログ、PCM 2chソースではDTS NEO:6シネマ、DTS NEO:6ミュージックも使用できます。

13 サラウンドについて

★ 本機に内蔵のデジタル信号処理回路のはたらきにより、プログラムソースを映画館と同じ臨場感でサラウンド再生をお楽しみいただけます。

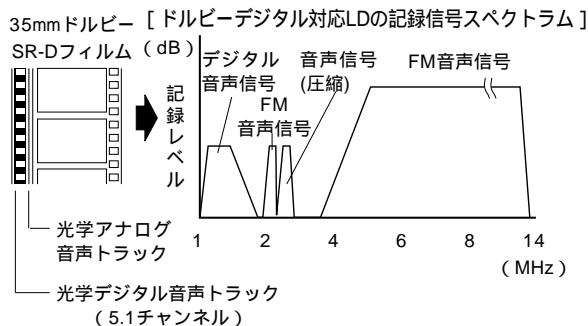
(1) ドルビーサラウンドについて

1 ドルビーデジタル

◎ ドルビーデジタルは、ドルビー研究所が開発したマルチチャンネルデジタル信号フォーマットです。
再生チャンネルはCDと同等以上の再生帯域（高域は20kHz以上再生可）を持つフロント3ch（フロント左（FL）、フロント右（FR）、センター（C））とサラウンド2ch（サラウンド左（SL）、サラウンド右（SR））に加え、低域（〜120Hz）効果音専用のLFE（ロー・フリクエンシー・エフェクト）の合計5.1chに対応しており、更にモノラル1chやステレオ2ch、ドルビープロロジック信号の伝送など幅広い対応ができます。

◎ また、各チャンネルの信号はそれぞれ完全に独立して記録されるため、各信号間の干渉、クロストークなどで劣化する心配がありません。これらのデジタル信号を、高効率符号化技術によってCDの半分以下のデータ量（最大640kbps）にて伝送可能といった特徴を持っています。

◎ この特徴を映画のサウンドトラックに生かし、映画館用に開発されたサラウンドシステムが『DOLBY SR-D（ドルビーステレオデジタル）』です。従来一般的であったドルビーサラウンド（ドルビープロロジック）がアナログ・マトリクス方式であったのに対して、各チャンネルが完全に独立したデジタル・ディスクリート方式となり、音の遠近感、移動感、定位感のある音場をよりリアルに再現することができるようになりました。そしてドルビーデジタル対応メディアであるLD、DVDなどは、AVルームでDOLBY SR-Dのサラウンドトラックをそのまま再現することを可能にしたため、映画館と同様に驚くほどリアルで圧倒的な臨場感を生み出します。

【SR-Dとドルビーデジタルの関係】

【ドルビーデジタルとドルビープロロジック】

家庭用サラウンド方式比較	ドルビー・デジタル	ドルビー・プロロジック
記録(素材)ch数	5.1ch	2ch
再生ch数	5.1ch	4ch
再生ch構成(MAX)	L, R, C, SL, SR, SW	L,R,C,S（SWは推奨）
音声処理	デジタル・ディスクリート処理 ドルビーデジタルエンコード、デコード	アナログ・マトリックス処理 ドルビー・サラウンド
サラウンドchの高域再生限界	20kHz	7kHz

■ ドルビーデジタル対応メディアとその再生方法

ドルビーデジタル対応マーク： DOLBY DIGITAL

以下の内容は一般的な例です。必ずお手持ちの再生機器の取扱説明書とあわせて確認してください。

メディア	ドルビーデジタル出力端子	再生方法（参照ページ）
LD（VDP）	ドルビーデジタルRF出力 専用同軸端子 **（注1）**	入力モードを『AUTO』に設定します。 （27、28ページ参照）
DVD	光または同軸デジタル出力 （PCMと共通）	入力モードを『AUTO』に設定します。 （27、28ページ参照）
その他 （衛星放送、CATVなど）	光または同軸デジタル出力 （PCMと共通）	入力モードを『AUTO』に設定します。 （27、28ページ参照）

注1 ： デジタル入力端子にドルビーデジタルRF出力信号を接続するときは、市販のアダプターを使用してください。（アダプターの取扱説明書を参照してください。）

サラウンドについて（つづき）

2 ドルビープロロジックⅡx対応

DOLBY DIGITAL・EX PRO LOGIC IIx

◎ ドルビープロロジックⅡxはドルビープロロジックⅡのマトリックスデコード技術を拡張して、2チャンネルで記録された音声を、サラウンドバックチャンネルを含めた最大7.1チャンネルにデコードして再生することができます。

また、5.1チャンネルソースについても、最大7.1チャンネルでの再生を楽しむことができます。
音楽再生に適したMUSICモード、映画再生に適したCINEMAモード、ゲームをお楽しみになる場合に最適なGAMEモードが再生するソースに合わせて選べます。
GAMEモードは2チャンネル音声に対してのみ使用できます。

3 ドルビープロロジックⅡ

◎ ドルビープロロジックⅡ は、従来のドルビープロロジック回路を更に進化させたフィードバックロジックステアリング技術を用いて、ドルビー研究所により開発された新しいマルチチャンネル再生方式です。

◎ ドルビーサラウンド録音されたソース（※）に加え、音楽ソースなどの通常のステレオ録音ソースも5ch（FL、FR、C、SL、SR）の信号にデコードし、サラウンド再生を楽しむことができます。

◎ サラウンドチャンネルの再生周波数帯域は、帯域制限のあった従来のドルビープロロジックに比較して広帯域（20～20kHz以上）になっています。また、従来サラウンドチャンネルはサラウンドL（左）＝サラウンドR（右）のモノラル再生でしたが、新たにステレオ信号として再生する方式をとっています。

◎ 再生するソースの種類や内容に合わせて最適なデコード処理をおこなえるように、各種パラメーターを設定することが可能になりました。（37、38ページ参照）

※ “ **ドルビーサラウンド録音されたソース** ” とは

- 3ch以上で構成されるサラウンド信号を、ドルビーサラウンドエンコード技術によって2chの信号として記録したソースです。
- DVD、LD、ステレオVTRで再生される映画のサウンドトラックをはじめ、FM、TV、BS、CSなどのステレオ放送信号にて用いられています。
- この信号に対して、プロロジックⅡデコードを施すことにより、マルチチャンネルでのサラウンド再生が可能になりますが、一般的なステレオ機器でそのままステレオ再生することも可能です。
- ドルビーサラウンド録音信号には2種類あります。

① PCMステレオ2ch信号
②ドルビーデジタル2ch信号

いずれの信号が本機に入力されても『AUTO DECODE』モードで2CHモードを『プロロジックⅡ』に選択すると、
サラウンドモードは自動的に『ドルビープロロジックⅡ』となります。
（スピーカー設定が6.1CH、7.1CHの場合は『プロロジックⅡx』となります。）

■ **ドルビーサラウンド録音されたソースには以下のロゴマークが表示されています。**

ドルビーサラウンド対応マーク： DOLBY SURROUND

サラウンドについて（つづき）

(2) DTS デジタルサラウンドについて

DTSデジタルサラウンド（または単にDTSと呼ばれます）は、デジタル・シアター・システムズ社が開発したマルチチャンネルデジタル信号フォーマットです。
再生チャンネルや再生帯域はドルビーデジタルと同様、FL、FR、C、SL、SRの5chに加えてLFE 0.1chを持つ5.1chで、他にステレオ2chモードがあります。いずれも各チャンネルの信号は完全に独立して記録されるため、各信号間の干渉、クロストーク等で劣化する心配はありません。
DTSはドルビーデジタルに対して比較的高いビットレート（CD/LDで1234kbps、DVDは1536kbpsか768kbps）となり、相対的に低い圧縮率で動作するのが特徴です。そのためデータ量が多く、映画館においてのDTS再生は、フィルムと同期をとったCD-ROMを別途再生する方法がとられています。
もちろんLDやDVDにおいてはそういった心配はなく、1枚のディスクに映像とサウンドが同時に記録可能なため、他のフォーマットと同様の取り扱いが可能です。
この他のメディアにはDTS録音されたCDがあります。これは従来の（2ch録音された）CDと同様のメディアに5.1chのサラウンド信号が記録されたもので、映像はありませんが、CDプレーヤーを使ってサラウンド再生が可能となるという特徴があります。
DTSによるサラウンドトラック再生も映画館とAVルームの間で基本的な違いは無く、映画館と同様の緻密で雄大なサウンドを楽しむことができます。

■ DTS対応メディアとその再生方法

DTS対応マーク： DIGITAL dts SURROUND または dts

以下の内容は一般的な例です。必ずお手持ちの再生機器の取扱説明書と合わせて確認してください。

メディア	DTSデジタル出力端子	再生方法（参照ページ）
CD	光または同軸デジタル出力（PCMと共通）**（注4）**	入力モードを『AUTO』または『DTS』に設定します（27、28ページ参照）。絶対に『ANALOG』および『PCM』モードには切り替えないでください。**（注3）**
LD（VDP）	光または同軸デジタル出力（PCMと共通）**（注4）**	入力モードを『AUTO』または『DTS』に設定します27、28ページ参照）。絶対に『ANALOG』および『PCM』モードには切り替えないでください。**（注3）**
DVD	光または同軸デジタル出力（PCMと共通）**（注5）**	入力モードを『AUTO』または『DTS』に設定します（27、28ページ参照）。

注3 ： CDやLDのDTS信号は、通常のCDやLDにおけるPCM信号がそのままDTS信号に置き換わった形で記録されています。そのためCD、LDプレーヤーのアナログ出力からはDTS信号がノイズとなって出力されます。このノイズをアンプによって再生した場合、最悪のケースでは本機やスピーカーなどの周辺機器が故障する可能性があります。これらの問題を避けるため、DTSで記録されたCDやLDを再生する前に、入力モードを必ず『AUTO』または『DTS』モードへ切り替えてから、ディスクの再生をおこなうようにしてください。また再生中は絶対に『ANALOG』および『PCM』モードへは切り替えないでください。DVDプレーヤーやLD/DVDコンパチプレーヤーでCDやLDの再生をおこなうときも同様です。なおDVDメディアの場合は、DTS信号は専用の記録方式で記録されているため、問題はありません。

注4 ： CDまたはLDプレーヤーなどで、デジタル出力に何らかの信号処理（出力レベル調整、サンプリング周波数変換など）がおこなわれている場合があります。この場合誤ってDTS信号に信号処理がおこなわれてしまい、本機と接続しても正しく再生できずノイズなどが発声することがありますので、はじめてDTS再生をおこなう場合はまず主音量調節つまみを絞り、DTSディスクの再生を開始すると本機のDTSインジケーター（28ページ参照）が点灯することを確認してから主音量調節つまみを上げるようにしてください。

注5 ： DVDのDTSメディアは、その再生に対応したプレーヤーが必要です。お手持ちのDVDプレーヤーがDTS対応であるかはDVDプレーヤーのメーカーまたは販売店にご確認ください。

サラウンドについて（つづき）

（3）DTS-ES Extended Surround™について

DTS-ES Extended Surroundは、デジタル・シアター・システムズ社の開発した新しいマルチチャンネルデジタル信号フォーマットです。DTS-ES Extended Surroundは、従来のDTS Digital Surroundフォーマットに対して上位互換性を持ちつつ、更に拡張されたサラウンド信号によって360度の定位感や空間表現力が大幅に拡大します。映画館においては1999年に導入され商業利用されています。
DTS-ES Extended SurroundはサラウンドチャンネルとしてFL,FR,C,SL,SR,LFEの5.1チャンネルに対して、SB（サラウンドバック、またはサラウンドセンターと呼ばれる）チャンネルが加わり、合計6.1チャンネルのサラウンド再生がおこなわれます。またそのサラウンド信号記録方式の違いにより、次の2種類の信号フォーマットがあります。

DTS-ES™ Discrete6.1（ディスクリート6.1）：

追加されたSBチャンネルを含め、6.1チャンネル全てがデジタルディスクリート方式によって独立したチャンネルとして記録される最新のフォーマットです。SL,SR,SBの各チャンネルが完全に独立しているため自由なサウンドデザインが可能で、360度周囲を取り囲むバックグラウンド音の中を自由に音像が飛び交う、といった表現も可能となるのが大きな特徴です。
この方式で記録されたサウンドトラックはDTS-ESデコーダーで再生することによってそのパフォーマンスを最大限に発揮しますが、同時に従来のDTSデコーダーで再生した場合も、SBチャンネルの信号は自動的にSL,SRチャンネルにダウンミックスされて再生されるため、信号成分の欠落無く再生することが可能です。

DTS-ES™ Matrix6.1（マトリクス6.1）：

追加されたSBチャンネルを予めSL,SRチャンネルへマトリクスエンコードを施し挿入し、再生時にマトリクスデコーダーによってSL,SR,SBの各チャンネルにデコードするフォーマットです。DTS社の開発した高精度デジタルマトリクスデコーダーを使用することにより記録時のエンコーダーとその特性を完全に合わせることができるため、従来の5.1または6.1チャンネルシステムに比べて、より制作者のサウンドデザインに忠実なサラウンド再生が実現できます。また、ビットストリームのフォーマットは従来のDTS信号と100パーセントの互換性がありますので、5.1チャンネルの信号ソースでもMatrix6.1の効果を確認することが可能です。勿論、DTS-ES Matrix6.1エンコードソースをDTSの5.1チャンネルデコーダーで再生することも可能です。

DTS-ES Discrete6.1/Matrix6.1エンコードソースをDTS-ESデコーダーでデコードした場合、デコード時にフォーマット検出をおこないそれぞれ最適な再生モードが選択されます。ただしMatrix6.1のソースについては一部に5.1チャンネルのフォーマットとして検出されるソースがあります。またDTS-ESデコーダーには別の機能として、デジタルPCM信号及びアナログ信号ソースを6.1チャンネル再生する、DTS NEO:6サラウンドモードがあります。

DTS NEO:6™ サラウンドについて：

DTS-ES Matrix6.1に採用された高精度デジタルマトリクスデコーダーを従来の2チャンネル信号に応用し、6.1チャンネルのサラウンド再生をおこなうモードです。高精度な入力信号検出及びマトリクス処理によって、6.1チャンネル全てのチャンネルでフルバンド（周波数特性20〜20kHz以上）の再生が可能な上、各チャンネル間のセパレーション特性もデジタルディスクリート方式と同等な程までに向上しています。
DTS NEO:6サラウンドモードには、再生する信号ソースの内容に合わせて最適なデコード処理を選択できる、2つのモードがあります。

DTS NEO:6 CINEMA：

映画再生に最適なモードです。セパレーション特性を重視してデコードすることにより、2チャンネルソースでも6.1チャンネルソースと同じような雰囲気で楽しむことが可能です。
同相成分は主にセンター（C）に、逆相成分はサラウンド（SL、SR、SB）に振り分けられる特性を持つため、従来のサラウンド録音されたソース再生にも効果があります。

DTS NEO:6 MUSIC：

主に音楽再生に適したモードです。フロントチャンネル(FL,FR)の信号を重視してデコードすることにより音質の変化が少なく、更にセンター（C）とサラウンド（SL、SR、SB）チャンネルから出力されるサラウンド信号の効果により、音場にナチュラルな拡がり感が加わります。

サラウンドについて（つづき）

(4) AACについて

MPEG2-AAC（Advanced Audio Coding）はMPEG（Moving Picture Experts Group）が開発したマルチチャンネル音声フォーマットです。
その特長は、高音質・高圧縮率を両立できることです。特に低ビットレート（高圧縮率）の環境においてドルビーデジタルやMP3（MPEG Layer-3）等従来のフォーマットに比べて高い音質を維持することが出来ます。具体的にはわずか96kbpsという低ビットレートで、CD並みといわれる品質のステレオ音声を伝送することが出来ます。
その特長を生かしてポータブルオーディオ等への応用が増加している一方、多チャンネルに対応しても全体のビットレートを低く抑えることが出来るため、日本のBSデジタル放送における5.1chサラウンド放送をはじめとする、サラウンドシステムへの応用が始まりました。
MPEG2-AACは元々映像信号と音声信号の複合データであるMPEGデータの音声規格として開発されたため、その用途に応じて求められるスペックは多岐に渡ります。映像と組み合わせたトータルのビットレートを低く抑えるため低ビットレートでの音質確保、また多チャンネル伝送時のデータ量低減、業務用途のみに特化することなく使えるデータ処理の簡略化、それらは相反する要素を持ちますが、いずれの要求も満たせる様配慮され非常に柔軟性の高い規格になっています。そのため音声信号の種類やそのデータ作成環境に適合させるためにMAIN/LC/SSRプロファイルという3種類のデータ構造を持っています。

【MPEG2-AACのスペック（概要）】

- アルゴリズム　：　MAINプロファイル
LC(Low Complexity)プロファイル
SSR(Scalable Sampling Rate)プロファイル
- サンプリング周波数　：　8kHzから96kHzまで対応
- チャンネル数　：　最大48チャンネルのマルチチャンネル伝送に対応
- その他の機能　：　LFE(Low Frequency Effect)サポート
マルチリンガル(複数言語)サポート

この中で本機は、BSデジタル放送にて使用される32kHzから48kHzまでのサンプリング周波数と、LCプロファイルの再生に対応しております。またチャンネル数は最大5.1chのデータに対応します。

※ MPEGによる音声規格は他にLayer-1,2,3等がありますが、それらとAACの間に互換性はありません。
本機はその中でさきに述べたAACの再生に対応します。

◎ 以下がAACに関する米国パテントナンバーです。

08/937,950	5 297 236	5,481,614	5,490,170
5848391	4,914,701	5,592,584	5,264,846
5,291,557	5,235,671	5,781,888	5,268,685
5,451,954	07/640,550	08/039,478	5,375,189
5 400 433	5,579,430	08/211,547	5,581,654
5,222,189	08/678,666	5,703,999	05-183,988
5,357,594	98/03037	08/557,046	5,548,574
5 752 225	97/02875	08/894,844	08/506,729
5,394,473	97/02874	5,299,238	08/576,495
5,583,962	98/03036	5,299,239	5,717,821
5,274,740	5,227,788	5,299,240	08/392,756
5,633,981	5,285,498	5,197,087	

サラウンドについて（つづき）

(5) ドルビーバーチャルスピーカーについて

ドルビーバーチャルスピーカー（Dolby Virtual Speaker）技術は、ドルビーラボラトリーズ社の専有技術により、フロント2チャンネルスピーカーだけでサラウンド音場の仮想化をおこなっており、実際にサラウンドスピーカーを設置しているかのような再生が体験できます。

■ドルビーバーチャルスピーカーの特長

◎ 正確なサラウンド音場定位

仮想サラウンドスピーカーの位置は、左方向に105 ° 右方向に105 ° として処理されます。

◎ マルチチャンネルプログラムを制作者の意図通りに再生

各チャンネルの音はミキシング時に設定された位置に再生されます。例えば左後方に設定されたものは左後方から聞こえます。

◎ ステレオプログラムがサラウンドに

ドルビープロロジックIIとの連携動作によりステレオプログラムからも豊かなサラウンド音場を創造します。

◎ リスニングモード選択

標準（REFERENCE）モードとワイド（WIDE）モードが提供されます。

本機ではスピーカー構成を変更した場合も、下記のドルビーバーチャルスピーカーモード再生に対応しています。

- 3スピーカー（フロント2チャンネル+センター）：標準/ワイドモード
- 5スピーカー（フロント2チャンネル+センター+サラウンド2チャンネル）：ワイドモード

(6) ドルビーヘッドホンについて

ドルビーラボラトリーズと豪州レイクテクノロジー社との共同開発による立体音響技術で、サラウンド音場を通常のヘッドホンで再生できる技術です。

元来、ヘッドホンではすべての音が頭の中でなってしまい長時間の鑑賞は苦痛となりますが、部屋でのスピーカー再生をシュミレートしたドルビーヘッドホンは音源が前方あるいは側面にしっかり頭外定位するため、まるで映画館かホームシアターにいるような迫力のあるサウンドを聞くことが可能です。この技術は主としてドルビーデジタルまたはドルビープロロジックサラウンドのデコード機能を組み込んだマルチチャンネルオーディオ/ビデオ機器を対象にしており、高性能デジタル信号処理用チップ（DSP）に組み込んで動作させます。

ドルビーヘッドホンはマルチチャンネル音源だけでなくステレオプログラムにも効果的です。

14 スリープタイマーについて

■ **スリープタイマーの予約のしかた（リモコンのみ）**

★ 付属のリモコンを使用して、電源をスタンバイ状態にする時間を最大120分まで設定できます。（スリープタイマー）

★ 設定した時間（分）後に、自動的に電源をスタンバイ状態にすることができます。

【例】 50分後に電源をスタンバイになるように設定するとき

1 **お好みのファンクションを選び、再生します。**

2 **SLEEPボタンを押します。**

● “ 120 ” が表示され、“ SLEEP ” 表示が点滅します。

（リモコン）

120　SLEEP

※ SLEEPボタンを押すたびに、表示が次のように切り替わります。

→120→90→60→50→40→30→20→10→“ SLEEP ” 表示消灯→

3 **“ SLEEP ” 表示が点滅している間に、さらにSLEEPボタンを押し “ 50 ” を表示させます。**

● “ 50 ” が表示され、“ SLEEP ” 表示が点滅します。

SLEEP

（リモコン）

50　SLEEP

● 約5秒後、スリープタイマー設定前の状態に戻り、“ SLEEP ” 表示が点灯します。（これでスリープタイマーの設定が完了します。）

4 **50分後に電源がスタンバイになります。**

※ **SLEEP動作中（“ SLEEP ” 表示中）にSLEEPボタンを押す**とスタンバイ状態になるまでの残り時間を表示します。この状態でさらにSLEEPボタンを押すと設定時間が “ 120 ” に戻ります。

※ **スリープタイマーを止めるとき**は、“ SLEEP ” 表示が消灯するまでスリープボタンをくり返し押してください。

また、本機またはリモコンの電源ボタンを押して、システム全体の電源をスタンバイにしたときもスリープタイマーを止めることができます。

（リモコン）

（本体）

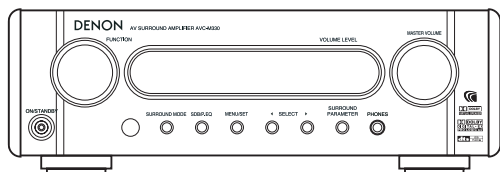
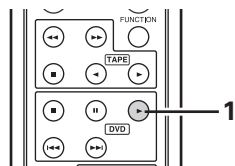
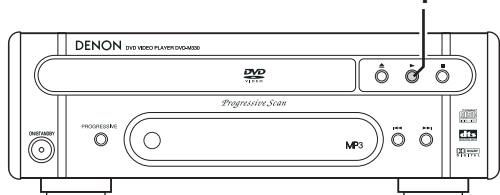
（リモコン）

15 システム機能について

★本機をDVDプレヤー（DVD-M330）やD-M33シリーズのMDレコーダー（DMD-M33）またはカセットデッキ（DRR-M33）とシステム接続すると、さらに使いやすさが向上します。（接続のしかたは、24～25ページの『10.D-M33シリーズ機器とのシステムの接続のしかた』を参照してください。）
★本機と組み合わせてシステム動作ができるのは上記機器に限られます。

(1) オートパワーオン機能

★電源がスタンバイ状態のとき、DVDプレーヤー本体のプレイボタン（▶）またはリモコンのDVDプレイボタン（▶）を押すだけでDVDプレーヤーと本機の電源が入り、DVDプレーヤーにディスクが装着されていればディスクの再生をおこなうことができます。

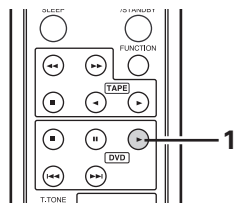
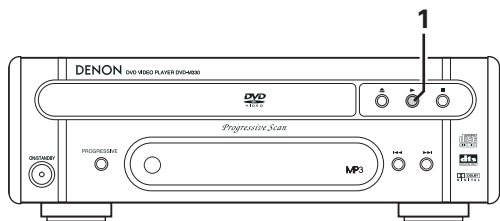
本機（AVC-M330）

DVDプレーヤー（DVD-M330）

1 **本機とDVDプレーヤーがスタンバイ状態のとき、DVDプレーヤー本体のプレイボタンまたはリモコンのDVDプレイボタンを押すだけで、本機とDVDプレーヤーの電源が入ります。**ディスクが装着されている場合は、ディスクの再生をはじめます。

（DVD-M330）　（リモコン）

● D-M33シリーズのMDレコーダー（DMD-M33）またはカセットデッキ（DRR-M33）とシステム接続すると、同様にリモコンのプレイボタンでオートパワーオン機能が働きます。MDディスクやカセットテープが入っている場合は、各機器のプレイボタンでも働きます。

システムパワーオフ機能
本機の電源をスタンバイにすると、システム接続された機器すべての電源がスタンバイになります。

(2) オートファンクション機能

★ボタン1つの操作でファンクションを『DVD』に切り替えて、ディスクの再生をおこなうことができます。

1 **本機以外の機器（カセットデッキ、MDレコーダー）の再生中にDVDプレーヤー本体のプレイボタンまたはリモコンのDVDプレイボタンを押します。**

（DVD-M330）　（リモコン）

● 再生中の機器の再生が停止します。同時に本機のファンクションが『DVD』に切り替わり、ディスクが装着されていればディスクの再生をはじめます。

● D-M33シリーズのMDレコーダー（DMD-M33）またはカセットデッキ（DRR-M33）とシステム接続すると、リモコンのプレイボタンで同様にオートファンクション機能が働きます。MDディスクやカセットテープが入っている場合は、各機器のプレイボタンでも働きます。
● TV/AUX1やAUX2に接続された機器に対しては、オートファンクション機能は働きません。

システム機能について（つづき）

（3）CD→MD録音機能（AVC-M330、DVD-M330、DMD-M33システムコード接続時）

★ CDを簡単にミニディスクに録音することができます。あらかじめ録音入力の切り替え（アナログ、デジタル）と録音レベルの確認と調節をおこなってください。

1 同期録音機能

1 **各機器の電源を入れます。**

- DVD-M330は操作***3*** のボタンでも電源が入ります。

（本機）（DVD-M330）（DMD-M33）（リモコン）

2 **ファンクションボタンを押して、ファンクションを『DVD』にします。**

（本機）（リモコン）

3 **DVDプレーヤーのディスクホルダーを開けてCDを載せ、ディスクホルダーを閉めます。**

（DVD-M330）

4 **DVDプレーヤーのディスプレイにCDの総曲数と総時間が表示されるのを確認します。**

【例】総曲数：16曲、総時間：53分20秒のCDの場合

5 **MDレコーダーのMD挿入口に、録音するMDを入れます。**

6 **MDレコーダーの録音ボタンを1回押して、録音一時停止状態にします。**

MULTI REC

（DMD-M33）

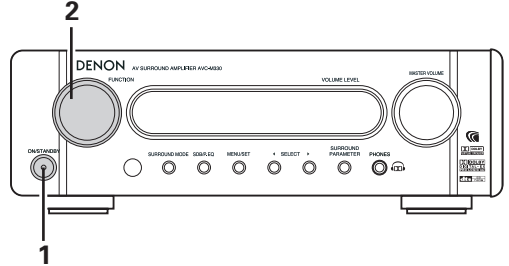
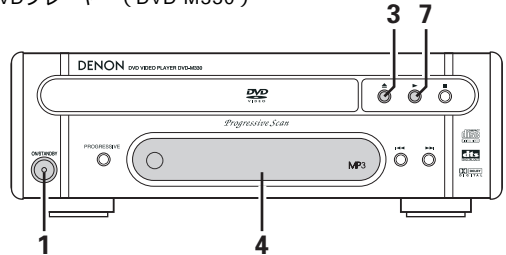
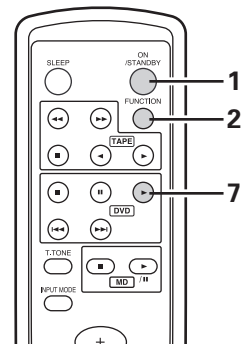
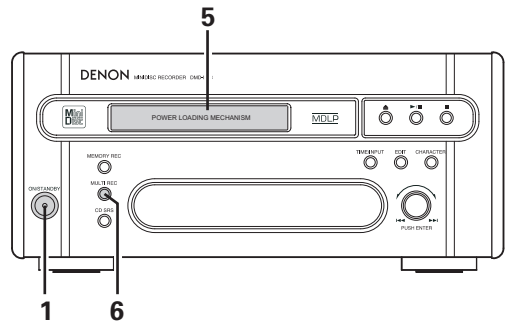
7 **DVDプレーヤーの本体のプレイボタンまたはリモコンのDVDプレイボタンを押します。**

- 自動的にCDの録音をはじめます。

（DVD-M330）（リモコン）

※ DVDプレーヤーを停止したり、CDの再生が終わると、録音一時停止状態になります。

※ 録音を止めるときはMDレコーダーのストップ（■）ボタンを押します。

本機（AVC-M330）

DVDプレーヤー（DVD-M330）

MDレコーダー（DMD-M33）

システム機能について（つづき）

2 シンクロ録音機能（CDのみ）

1〜5 **1の1〜5と同じ操作をおこないます。**

6 **MDレコーダーのCDシンクロ録音ボタンを押して、シンクロ録音モードを選びます。**

（DMD-M33）

- ボタンを押すたびに、次のように切り替わります。

SRS1disc Rec?：1枚のCDをすべて録音します。
↓
SRS Make Gp?：1枚のCDをすべて録音し自動的に1つのグループとして登録されます。
↓
*SRS1Tr Rec?：CDの最初の1曲のみを録音します。

7 **MDレコーダーのエンターボタンを押します。**

- 自動的にCDの録音がはじまります。

（DMD-M33）

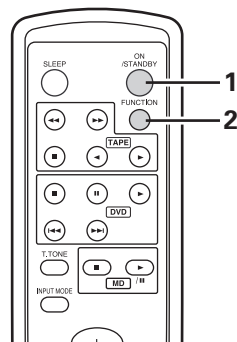
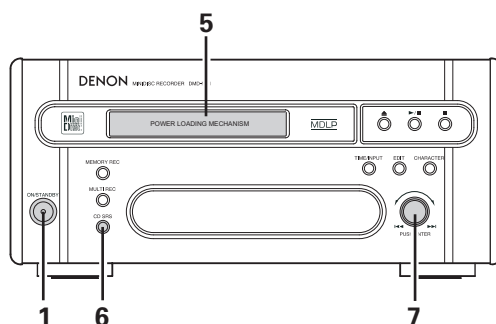
※ CDに収録されているすべての曲の再生が終わると、DVDプレーヤーとMDレコーダーは自動的に停止します。
※ また、CDの再生が終わらないうちにMD一杯に録音されたときも、DVDプレーヤーとMDレコーダーは自動的に停止します。
※ **シンクロ録音を止めるとき**は、DVDプレーヤーまたはMDレコーダーのストップボタン（■）を押してください。

ご注意

- 本機のファンクションがDVD以外のときは、動作しません。

本機（AVC-M330）

DVDプレーヤー（DVD-M330）

MDレコーダー（DMD-M33）

（4）CD→TAPE録音機能（AVC-M330、DVD-M330、DRR-M33システムコード接続時）

★ CDを簡単にカセットテープに録音することができます。

1 同期録音機能

1 **各機器の電源を入れます。**
- DVD-M330は操作**3** の⏏ボタンでも電源が入ります。
- DRR-M33は操作**5** の⏏ボタンでも電源が入ります。

ON/STANDBY　ON/STANDBY　ON/STANDBY　ON /STANDBY

（本機）　（DVD-M330）　（DRR-M33）　（リモコン）

2 **ファンクションボタンを押して、ファンクションを『DVD』にします。**

（本機）

（リモコン）

3 **DVDプレーヤーのディスクホルダーを開けてCDを載せ、ディスクホルダーを閉めます。**

（DVD-M330）

4 **DVDプレーヤーのディスプレイにCDの総曲数と総時間が表示されるのを確認します。**

【例】総曲数：16曲、総時間：53分20秒のCDの場合

5 **カセットホルダーを開けて、録音するカセットテープを載せ、カセットホルダーを閉じます。**

（DRR-M33）

6 **カセットデッキの録音ボタンを1回押して、録音一時停止状態にします。**

（DRR-M33）

7 **DVDプレーヤーの本体のプレイボタンまたはリモコンのDVDプレイボタンを押します。**
- 自動的にCDの録音をはじめます。

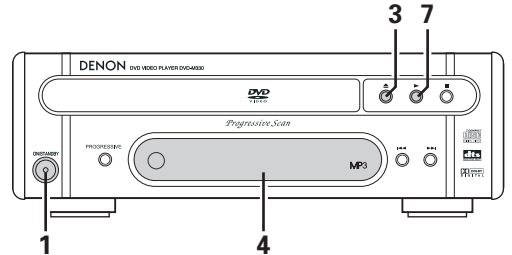
（DVD-M330）

（リモコン）

※ DVDプレーヤーを停止したり、CDの再生が終わると、録音一時停止状態になります。
※ 録音を止めるときはカセットデッキのストップ（■）ボタンを押します。

本機（AVC-M330）

DVDプレーヤー（DVD-M330）

3 7
DENON DVD VIDEO PLAYER DVD-M330
Progressive Scan
ON/STANDBY
PROGRESSIVE
MP3
1　4

カセットデッキ（DRR-M33）

システム機能について（つづき）

2 シンクロ録音機能（CDのみ）

1～5	**1の*1～5*と同じ操作をおこないます。**
6	**カセットデッキのCDシンクロ録音ボタンを押します。** ● 自動的にCDの録音をはじめます。 CD SRS （DRR-M33）

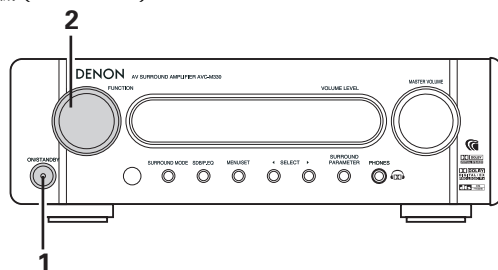
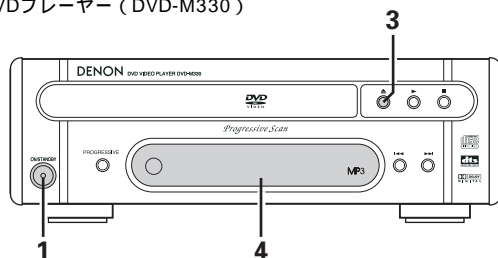
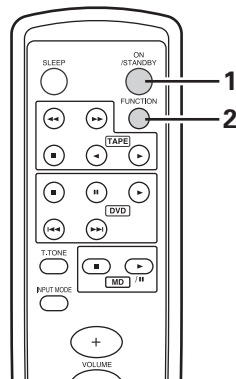
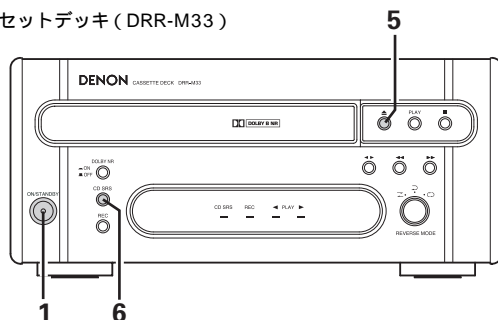
※ CDに収録されているすべての曲の再生が終わると、DVDプレーヤーとカセットデッキは自動的に停止します。

※ また、CDの再生が終わらないうちにカセットテープ一杯に録音されたときも、DVDプレーヤーとカセットデッキは自動的に停止します。

※ **シンクロ録音を止めるとき**は、DVDプレーヤーまたはカセットデッキのストップボタン（■）を押してください。

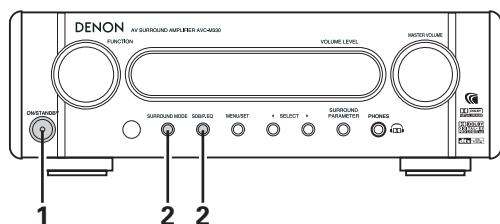
ご注意

● 本機のファンクションがDVD以外のときは、動作しません。

本機（AVC-M330）

DVDプレーヤー（DVD-M330）

カセットデッキ（DRR-M33）

16 ラストファンクションメモリーについて

★ 本機には電源をOFFにする直前の各種ボタンの設定状態を記憶するラストファンクションメモリー機能を備えています。電源をONにすると、電源をOFFにする直前の入出力状態が呼び出されますので、再度設定し直す必要はありません。
★ また、本機にはバックアップメモリー機能を備えています。これにより電源がOFFになったとき、および電源コードを抜いた場合でも各種の設定状態を保持することができます。

17 マイコンの初期化について

★ 本体のディスプレイ表示が正常でない、または本体やリモコンのボタンで操作できない場合は、下記の操作でマイコンの初期化をおこなってください。

ご注意

- 操作***3*** の状態にならない場合は、もう一度操作***1*** からやり直してください。
- マイコンの初期化をおこなった場合は、各種ボタンやセットアップの設定内容がすべて工場出荷時の初期設定に戻ります。

1 **電源ボタンを押してスタンバイ状態にします。**

2 **10秒以上たってから本機のサラウンドモードボタンを押し、SDB/プリセットイコライザーボタンを押してから、再度、サラウンドモードボタンを2秒以上押します**

3 **数秒後、ディスプレイ表示に『INITIALIZE』と表示され電源が入ります。**
- マイコンが初期化されます。

18 故障かな？と思ったら

故障？と思っても、もう一度確かめてみましょう

- **各接続は正しいですか**
- **取扱説明書に従って正しく操作していますか**
- **スピーカーや接続した機器は正しく動作していますか**

本機が正常に動作しないときは、次の表に従ってチェックしてみてください。なお、この表の各項にも該当しない場合は本機の故障とも考えられますので、電源を切り、電源プラグを電源コンセントから抜きとり、お買い上げの販売店にご相談ください。もし、販売店でおわかりにならない場合は、当社のお客様相談窓口またはお近くの修理相談窓口にご連絡ください。

現　象	原　因	処　置	関連ページ
電源を入れてもディスプレイが点灯せず、音も出ない。	● 電源コードの差し込みが不完全である。	● 電源コンセントへの電源プラグの差し込みを点検してください。	24
ディスプレイは点灯するが、音が出ない。	● スピーカーコードの接続が不完全である。	● しっかり接続してください。	16
	● 入力切り替えつまみの位置が不適当である。	● 正しい位置に切り替えてください。	27
	● 主音量調節つまみが絞ってある。	● 適当な位置まで回してください。	22、26
	● ミューティングがかかっている。	● ミューティングを解除してください。	35
	● デジタル信号が入力されていない。	● デジタル信号の入力ソースを正しく選択してください。	29
	● パワーアンプの保護回路が動作している。	● 電源プラグを抜いて配線や接続を確認してください。	15〜18
ディスプレイの音量表示が点滅している。	● 本体の温度上昇による保護回路が動作している。	● 電源プラグを抜いて本体が冷えるのを待って、周囲の通風状態を良くしてからもう一度電源を入れ直してください。	15〜18
モニターが映らない。	● 出力機器の映像出力端子とモニターの入力端子の接続が不完全である。	● 接続が正しいか確認してください。	21
	● モニターTVの入力設定が違う。	● TVの入力切り替えを映像入力を接続した端子に設定してください。	21
DTS音声が出ない	● DVDプレーヤーの音声出力設定がビットストリームになっていない。	● DVDプレーヤーの初期設定をしてください。	ー
	● DVDプレーヤーがDTS対応になっていない。	● DTS対応のプレーヤーを使用してください。	ー
	● 本機の入力設定がアナログになっている。	● AUTOまたはDTSに設定してください。	27
DVDからVCRにダビングできない。	● ほとんどの映画ソフトにはコピー防止信号が入っています。	● コピーはできません。	ー
サブウーハーが鳴らない。	● サブウーハーの出力が接続されていない。	● 正しく接続してください。	16
テストトーンが出ない	● サラウンドモードがオートデコード以外のモードになっている。	● オートデコードモードにしてください。	26
リモコンを操作しても正常に動作しない。	● 乾電池が消耗している。	● 新しい乾電池と交換してください。	13
	● リモコンの距離が離れ過ぎている。	● 近づいて操作してください。	13
	● 本体とリモコンの間に障害物がある。	● 障害物を取り除いてください。	13
	● 操作したいボタン以外のボタンを押している。	● 操作したいボタンを押してください。	14
	● 乾電池の⊕、⊖が正しくセットされていない。	● 乾電池を正しくセットしてください。	13
AACのインジケーターが点灯しない。	● BSデジタルチューナーと本機がアナログ接続になっている。	● デジタル接続にしてください。	23

故障かな？と思ったら（つづき）

ご注意

- AVサラウンドアンプ（AVC-M330)は小型で高出力アンプ搭載のため、内蔵の空冷ファンを動作させ、内部温度を下げるよう設計されています。
  異常により温度が高くなった場合は保護回路が働き、スピーカーからの出力が制限されます。（ディスプレイのボリューム表示が点滅します。さらに温度が高くなると電源がスタンバイになり、電源表示インジケーターが赤色に点滅します。）
  本体が熱くなり音声が出力されなくなった場合、すぐに電源プラグをコンセントから抜いた上で本書6ページ『設置の際のご注意』に従い、きちんと設置されているかを確認してください。
  設置、接続に問題がない場合は故障が考えられますので、電源プラグをコンセントから抜いたまま弊社のお客様相談窓口にご連絡ください。

19 主な仕様

(1）AVサラウンドアンプ（AVC-M330）

実用最大出力	フロント：　20W＋20W（負荷6Ω、EIAJ） センター：　20W（負荷6Ω、EIAJ） サラウンド：　20W＋20W（負荷6Ω、EIAJ） スーパーウーハー：20W（負荷6Ω、EIAJ）
出力端子	6Ω～16Ω
入力感度	300mV/47kΩ
周波数特性	10Hz～50kHz：＋1.5、－3dB（アナログ入力ダイレクトモード時、総合）
S/N比	90dB（アナログ入力ダイレクトモード時）
プリアウト定格出力	0.6V
電源	AC100V　50/60Hz
消費電力	電源入り（ON）時：　70W（電気用品安全法による） 待機（スタンバイ）時：1W以下
最大外形寸法	210（幅）×70（高さ）×325（奥行き）mm （フット・つまみ・端子を含む）
質量	3.9kg

■ **リモコン**　（RC-989）

リモコン方式	赤外線パルス式
乾電池	R03/AAA（単4形）乾電池2本使用
外形寸法	46（幅）×180（高さ）×28（奥行き）mm
質量	100g（乾電池を含む）

主な仕様（つづき）

(2) スピーカーシステムパックSYS-M330（SC-AM330、SC-CM330、DSW-M330）

■ フロント/サラウンド用
スピーカー（SC-AM330）

形式	2ウェイ・2スピーカー、密閉型、防磁設計、ブックシェルフ
再生周波数帯域	120Hz～20kHz
入力インピーダンス	6Ω
最大許容入力	30W（EIAJ）、80W（PEAK）
クロスオーバー周波数	約10kHz
スピーカーユニット	ウーハー（5.7cmコーン形×1）、スーパーツィター（2.5cmバランスドーム形×1）
寸法	79（幅）×140（高さ）×133（奥行き）mm （サランネット、DENONマークを含む）
質量	0.7kg（1台当り）

■ センター用スピーカー
（SC-CM330）

形式	2ウェイ・3スピーカー、密閉型、防磁設計、センター
再生周波数帯域	120Hz～20kHz
入力インピーダンス	6Ω
最大許容入力	30W（EIAJ）、80W（PEAK）
クロスオーバー周波数	約10kHz
スピーカーユニット	ウーハー（5.7cmコーン形×2）、スーパーツィター（2.5cmバランスドーム形×1）
寸法	210（幅）×79（高さ）×133（奥行き）mm （サランネット、DENONマークを含む）
質量	1.0kg（1台当り）

■ スーパーウーハー
（DSW-M330）

形式	1ウェイ・1スピーカー、バスレフ型、防磁設計
再生周波数帯域	30Hz～240Hz
最大入力	60W（EIAJ）
入力インピーダンス	6Ω
スピーカーユニット	16cmコーン型×1
寸法	210（幅）×322（高さ）×304（奥行き）mm （DENONマークを含む）
質量	4.9kg（1台当り）

※ EIAJ：（社）電子情報技術産業協会（略称JEITA）が制定した規格です。

※ 仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。
※ 本機を使用できるのは日本国内のみで、外国では使用できません。
※『防磁設計』とは、（社）電子情報技術産業協会（略称JEITA）の技術基準に適合したスピーカーシステムです。

※ 本機は国内仕様です。
必ずAC 100Vのコンセントに電源プラグを差し込んでご使用ください。
AC 100V以外の電源には絶対に接続しないでください。

株式会社デノンコンシューマー マーケティング

本　　社　　〒104-0033 東京都中央区新川1-21-2
茅場町タワー 14F

お客様相談センター　TEL：045-670-5555
【電話番号はお間違えのないようにおかけください。】
受付時間　9：30〜12：00、12：45〜17：30
（弊社休日および祝日を除く、月〜金曜日）

故障・修理・サービス部品についてのお問い合わせ先（サービスセンター）については、
次の URL でもご確認できます。
http://denon.jp/info/info02.html

後日のために記入しておいてください。

購入店名：	電話（　-　-　）
ご購入年月日：	年　月　日

Printed in China　00D 511 4241 200A